

2019-2020 ガバナー月信

GOVERNOR'S Monthly Letter



地区幹事お疲れ様会

Final



ロータリーは
世界をつなぐ

国際ロータリー第2510地区 2019～2020年度ガバナー 福田 武男

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL (011) 207-2510 FAX (011) 207-2512
E-mail : rid2510@pxva.ne.jp <http://rid2510.org>

2019-2020年度国際ロータリーのテーマ

「ロータリーは世界をつなぐ」



国際ロータリー第2510地区 2019-2020年度地区目標

—自分を見つめ直し、若者を支援し、ロータリーの未来を語ろう—

1. みんなで手を取り合ってクラブを強化しよう

- ① 既存会員の維持と、地域の職業分類を調査・活用して更なる会員増強を推進し、クラブ会員の後継者を含めた若者たちへ向けて「ロータリー衛星クラブ」の設立を推奨し、ロータリーを成長させる。
- ② 女性会員や40歳未満の会員の入会を特に推進し、RAC全国研修会に向けてRACの拡大・増強を支援する。
- ③ ロータリー理解推進のため「ガバナー月信」を充実させ、ホームページをアップグレードし、「世界を変える行動人」キャンペーンを促進し、広報活動を推進する。

2. ロータリー財団へ寄付推進し、フルに活用しよう

- ① ロータリー財団への寄付を推進すると共に、クラブでは本年度特別に使用できる分も含めてDDFを十分に活用し、グローバル補助金も視野に地域社会および海外でのプロジェクトが増加するよう支援する。
- ② 「世界ポリオデー」には、世界のポリオ撲滅でWHOなどと共にロータリーが果たしている役割を広く地域に伝えるよう各クラブに奨励する。
- ③ 財団への年次基金とポリオプラスへの寄付を増やしつつ、恒久基金においても2025年までに20億2500万ドルへ成長するよう支援していく。

3. ローターアクターなど若者や新会員を支援しよう

- ① クラブに入会して5年以内の会員を対象に「新会員交流会」を開催し、ロータリーへの理解を深めてもらう。
- ② 米山記念奨学会への寄付の増進を図ると共に、この制度が地区内すべてのクラブにより一層理解され、また奨学生が卒業後日本との架け橋になれるように支援する。
- ③ クラブには「クラブ研修リーダー」の設置を奨励するとともに、積極的にロータリー・リーダーシップ研究会 (RLI) セミナーに参加してもらい、RLIセミナーがこれからの「ロータリーの学びの場」となるよう認識を広めていく。

CONTENTS

●ガバナーメッセージ	1	●2019-2020年度地区委員会活動報告	16
●2019-2020年度地区研修リーダーの終了にあたり	6	●新型コロナウイルス感染症予防・支援クラブ活動	27
●「友」誌はロータリーを知る教科書 ～第2510地区「ロータリーの友」地区代表委員を終えて～	7	●新会員のご紹介	32
●2020-2021年度地区研修・協議会について	8	●訃報	33
●恵庭ロータリークラブ創立50周年記念式典開催	9	●米山記念奨学会寄付・ロータリー財団寄付	34
●オーストラリア森林火災への義捐金ご協力へのお礼	10	●出席率・会員数(5月)	35
●ガバナー補佐退任挨拶	11	●出席率・会員数(6月)	36
		●ポール・ハリス語録	37

地区内すべてのクラブと会員の皆様に感謝

国際ロータリー第2510地区

2019-2020年度ガバナー **福田 武男**

(千歳RC)

不完全燃焼で帰港か・・・

地区内の会員の皆様、今回が「ガバナー月信」によるメッセージは総集編としてお届けすることになり、これが最後となります。

思い起こすと、2019年7月、大きな期待と不安を胸に2019-2020年度をスタートし、何とか関係する皆様のお陰を持ちまして、ガバナー公式訪問はじめ地区大会も予定通り無事終了することができました。しかし年が明けて残念ながら前代未聞の新型コロナウイルスという感染症が日本国内でも急速に蔓延していき、2月末から3ヶ月間にわたりロータリー活動が全くできなくなったことで、何か不完全燃焼で母港に帰ってきた思いを抱いたのは、私だけではなく多くのクラブ会長・幹事の皆様も同じであったろうと思います。

再び振り返ってみると・・・

既に年度が終了して2ヶ月が過ぎますが、もう一度思い返してみますと、2019-2020年度の前半は、あの重い「日本ロータリー100周年記念ベル」を引きずりながら、70クラブを公共交通機関でガバナー公式訪問をさせて頂きました。時にはそのグループのガバナー補佐の皆様の車に乗せてもらいながら、時には訪問クラブの会長さんに送ってもらいながら、色々な話で交流を深めることができたことが思わぬ大きな収穫でした。そして訪問する各クラブにおいては多くの会員の皆様から心暖まる歓

迎を受けましたことはガバナー冥利に尽きるもので生涯忘れることができない貴重な経験となりました。改めて皆様に心から感謝申し上げます。

地区大会の思い出・・・

恵庭市の花夢里パークゴルフコースでの「地区大会記念パークゴルフ」は、爽やかな秋晴れの下で開催され、和やかな中で無事終了することができ、何と最長老86歳の恵庭RCの三浦孝治会員が、パークゴルフはハンディーもないにも関わらずグロス優勝したのには本当に驚きました。

恒例の「地区大会記念ゴルフ大会」は千歳市内のシャムロックCCにおいて開催されましたが、残念ながら朝からの雨は人生で記憶にないくらいの激しい土砂降りでした。120名の登録の中で無理されないようにとキャンセルをお勧めしましたが、それでも最終的には80名を超えるご参加を頂きました。皆様の体調を考慮してハーフだけとさせて頂きましたが、事故もなく皆様満面の笑みの中で終えることができました。

そして本番の地区大会においては、第2830地区の山崎淳一RI研修リーダー(五所川原RC)と当地区の酒井正人PGとによるパネルディスカッションでは活発でとても有意義な意見交換が交わされ、翌日の本大会では、私の敬愛する今大会のRI会長代理であり、第2840地区のPGであります本田博己氏の記念講演をピークに盛り上がり、多くの同期ガバ

ナーよりご登録を頂きながら、盛会裏に終了することができました。

地区大会のフィナーレである懇親会では、我が地区のPGであります小林博PG(札幌北RC)からの20年に亘る「スリランカでの奉仕活動報告」で始まり、民謡とピアノ演奏、そしてマグロの解体ショーと、最高潮の盛り上がりの中で終わることができ、それぞれ皆様には大いに感動を味わっていただけたものと思います。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックで・・・

また今年度は地区内でクラブ周年事業を予定していたクラブが16クラブもあり、特に後半の6ヶ月はIM開催も含めてたいへん慌しいことになる筈でした。

しかしながら、2月3日に横浜港に停泊していたダイヤモンド・プリンセス号での新型コロナウイルス感染がテレビで報道されてから徐々に国内での感染が急激に拡がっていき、ロータリーにおいては、私が2月12日の第2580地区大会(沖縄那覇市)に出席し、翌日帰路的那覇空港において初めて那覇市のタクシードライバーが感染したことをテレビで知り、その後の各地区でのロータリーの地区大会開催が新型コロナウイルスの感染症拡大で大きな影響を受けることになってしまいました。

北海道では2月4日からの「さっぽろ雪まつり」で、中国武漢からの観光客の感染確認から始まり、札幌市、七飯町、千歳市、北見市などと、徐々に感染は道内に拡がり、そのような状況の中で2月22日の第12グループのIMと苫小牧北ロータリークラブの創立50周年式典、翌日の第8グループのIMと三石ロータリークラブの創立50周年式典が何とかギリギリで開催することができました。

しかし、その翌日の第2750地区(東京)の地区大会は開催が危ぶまれる中、私たちも出席させて頂きましたが、全員がマスク着用し、最後の大懇親会を中止するなど、感染対策に十分配慮しながらの重々しい厳しい開催となりました。

これらは私が経験した日本全国におけるロータリー最後のプログラムで、その後、予定されていた全国的プログラムは全て中止、地区においても各クラブの周年事業やIMなどは全て中止となり、その上5月末まではロータリーの例会も大半のクラブで中止ということになってしまいました。

丸々3ヶ月に及ぶロータリー活動の突然の休止、私の手帳も頭の中も真っ白になりましたが、クラブ会長・幹事さんはじめ、会員皆様も同様に悔いの残る思いをされたことでしょう。

何とかロータリーとして地域に奉仕活動ができないものかと思い悩んでいた矢先に、第2760地区(愛知)から「フェイスシールドを医療関係機関に寄贈するという取り組みをしませんか」、というご提案がありましたので、ガバナーとしては渡りに舟とこれに賛同すると共に、地区内30クラブにご協力頂き、総額300万円ほどのフェイスシールドを各地域の医療機関に寄贈をさせて頂きました。

最後の月はロータリー例会の再開へ・・・

6月に入って各地でようやくクラブ例会が再開されることになり、3ヶ月以上に及んだ休会もロータリー年度の最後の月はほぼ正常に開催できたことは、運命と言うか天の配剤とでも言いますか、不安ながらも心から安堵の胸をなで下ろしたというのが正直な気持ちでした。

これからのロータリー活動はどのように変わっていくのでしょうか。この新型コロナウイルス感染症

は完全に終息することはなく、我々はコロナウイルスと共生をしながら「新たな日常」を迎えることになると言われております。この「ニューノーマル」とはどのような社会になっていくのでしょうか。ロータリーの例会もオンライン例会が増えていくのでしょうか。台北での世界大会は開催されるのでしょうか。オリンピック・パラリンピックはやはり無理でしょうか？

地球環境保全に警鐘を・・・

今回の新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックの発生から、誰でもが改めて思い起こしているのではないのでしょうか。即ち、我々ロータリアンは地域社会への奉仕活動も大切ですが、世界へ目を向けることも同様に大切であるということを痛感させられました。

現在、地球温暖化の影響で様々なことが起きております。オーストラリアやカリフォルニアの森林火災、北極の永久凍土が溶け始めており、数万年前に氷に閉じ込められていた新種のウイルスや細菌などは溶出され、人間社会に出現してきています。それまでは熱帯雨林の奥深くにウイルスと共生していたコウモリなどの動物は住む場所を失い、人間社会に出現せざるを得なくなり、今回の新型コロナウイルスのような今までになかったウイルスが人間社会に押し出されてきております。

地球はこれからほぼ10万年周期のサイクルで、温暖化の期間に入っていくとも言われておりますが、それにしても人間社会が原因になっている二酸化炭素の排出により、地球温暖化は加速度的に進行していると言われております。海水の温度も各地で上昇が続いており、それぞれの港で獲れる魚の種類も大きく様変わりし、日本中で水害被害や台

風被害は今後、益々増加していくのではないかと想像せざるを得ません。数十年後には地球温暖化の影響で、多くの島国が水没するとも云われております。この変化はもう後戻りはできないでしょう。

地球を守ることが如何に大切か、地球は人間だけのものではないことを、今回のコロナ禍で誰もが思い知ったのではないのでしょうか。

ロータリーの大切な役割に、「その最善かつ最高の行動は世の警鐘者たる活動である」と、約100年前の決議23-34にはあります。今こそ、地球環境保全に警鐘を大いに鳴らすべき時です。聞くところによりますと、ロータリー財団ではこれを第7の重点分野とするということですが、地球温暖化防止はそれらと同列のレベルではないと思いますが、皆様はどのようにお考えでしょうか。

理論と実践のバランスこそがロータリーの究極のDNA・・・

2019-2020年度は1年間を通じて、「ロータリーの目的」を皆様で学びながら、ロータリーの根本を学び、奉仕の心を広めて行きましょう、というのが最初から最後まで不変の目標でありました。

理論と実践ですが、昔からロータリーでは理論の歯車を回してそのエネルギーを実践の歯車に伝えることによって、ロータリーの奉仕活動をしていくのだと言われてきました。すなわちロータリーの奉仕の理論を学び、そしてその心を持って奉仕の実践をしていくことです。またその奉仕活動の結果を受け止め反芻しながらさらに自らの奉仕の心を涵養していき、このように止むことなくスパイラルに昇華・成長させていこうと言うのがロータリーだと言われております。

世界中のクラブが力を合わせ世界の大きな問題を解決すべく、奉仕活動に力を入れることは無論大

切なことです、その前に「会員の中に奉仕の理念を育て、地域にそれをひろめること」、即ち「人を作ること」がロータリーのDNAであることをもう一度、思い出すべきではないでしょうか。

理論と実践はロータリーの最もロータリーらしいところであり、ロータリーは奉仕団体だという方も多くありますが、ロータリーには他団体とは全く違って、他の団体には見られない、一頭地を抜く「奉仕理念」があるということが大きな特徴であり、これがロータリーの財産、究極のDNAであります。

国際ロータリーは奉仕活動の拡大にやや前のめりになっておりますが、これに気づき、ロータリーの基本理念の育成にももっと比重をかけ、もっと大切にする事でロータリーの歩みの蛇行を修正し、両輪のバランスをしっかりと保持しつつ、ロータリーの夢、目標に向かって進んでいくことを多くのロータリアンは望んでいるのではないかと思います。

現在の国際ロータリーの合言葉は、**Join Leaders, Exchange Ideas, Take Action** です。73年前、RI会長のケンドリック・ガーンジーによって提案された **Enter to Learn Go forth to Serve** に代わってRIが今世紀になって提唱している合言葉です。本来はどちらも同じような意味であり、恐らくロータリアンがより積極的に参加し活動するようにと、新たに改定されたものと思いますが、どうも私には新しい合言葉は社会奉仕団体の合言葉に聞こえてなりません。元々の慣れ親しんでいる合言葉も、捨て去るのではなく積極的に活用していくべきではないかと思います。

世界の困窮している人達に涙し、救うこと、手を差し伸べること、その活動を更に拡げて行くことは勿論とても大切なことです、反面、ロータリーは

学ぶところであること、ロータリーは人を作るという運動をするところであるという視点も、全く同様に大切であることを皆で思い出し学び合い、今後、ロータリーの未来を背負って立つ若い会員の方々にも伝えていきたいものです。

「ロータリーの目的」を理解するとすぐ納得できるように、我々ロータリアンは本来、社会奉仕団体の一員として活動している仲間同士であるということは勿論ですが、他方では本来、「世の中に奉仕の理念を広めていこうという運動を展開しているフェローである」ことを忘れてはなりません。

ロータリーは何をしている団体？

ロータリークラブを多くの人に知って頂くツールとして、2016-17年度武部實ガバナーのご提案のもと、月刊誌「財界さっぽろ」の舟本秀男社長(札幌南RC)の全面的なご協力により、2016-17年度から武部實年度-国立金助年度-小山司年度の3年間、36回にわたり、貴重な紙面をお借りして地区内69クラブの活動を紹介する「ロータリークラブの神髄」を連載して頂きました。

この度、地区の武部實地区会員増強委員長(PG)が中心となり、広報・ICT委員会の武蔵輝彦委員長(岩見沢RC)のご協力によって、今までの連載を一冊の小冊子にまとめようということになりました。

今年度は正に未曾有の新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、2月末から5月末まで丸々3ヶ月、ロータリー活動は休止に追い込まれました。勿論、ロータリーの全国的な会議も全て中止で、各クラブでも例会も奉仕活動も何もできない状況が続きました。

この小冊子の作成計画は以前から進められていたものですが、たまたま時期が合致して、この小冊

子の発刊が3ヶ月に及んだコロナ禍の空白を埋めてくれることになりました。「財界さっぽろ」の舟本秀男社長のサポートに改めて感謝しますと共に、武部實地区会員増強委員長の英知と行動力に深甚なる経緯と感謝を申し上げます。

現在のところ5,000冊作成の予定です。これを各クラブで会員に配布して頂き、コロナ禍が収まった後、地域の各公共機関に設置をお願いし、今後の将来の新会員用に保存しておいて下さい。この冊子は日本全国の地区に贈呈され、また国内全てのPGにも贈呈させて頂く考えであります。

最後に皆様に感謝・・・

まだまだ書き残したことはありますが、キリがありません。

ようやく、ガバナー年度を終われるところまで漕ぎつけました。コロナ禍により「3ヶ月に及ぶロータリー活動の未曾有の空白」により、皆様や先輩のPGからは、「日数が足りないから卒業とは認めない・・・」という声が聞こえそうですが、何れにしてもようやく卒業を迎えたことを実感しています。

最後になりますが、地区大会パネルディスカッションでパネラーをお願いしました山崎淳一氏、また地区大会にご臨席頂きました本田博己RI会長代理と由美子令夫人へは、心からの感謝を致しますと共に、千歳RCの名誉会員であります山口幸太郎千歳市長の2日間にわたるご臨席に対しましても、生涯にわたり、感謝の気持ちは忘れることはできません。

ガバナーノミニ一、ガバナーエレクト、そしてガバナーとしての1年間を含めて3年間、関係する多くの皆様に大変お世話になりました。12名のガバナー補佐の皆様、地区委員会の皆様、地区幹事の皆様、

パークゴルフ大会とPETS開催を担当して頂いた恵庭RCの皆様、記念ゴルフ大会と地区研修・協議会を担当して頂いた千歳セントラルRCの皆様、地区大会をサポートして頂いた第7グループの皆様、新人研修会を担当して頂いた丸駒温泉(株)の佐々木義朗社長と地区幹事の皆様、陰から支えて頂いた地区PGの皆様、そして最後にエレクトの時から本年度の準備に大変なご苦勞をされた千歳RCの今野良紀直前会長、開催年度の藤川俊一会長、千歳ロータリークラブの会員及び多くの奥様方、ご協力を頂きました全ての皆々様に心から感謝とお礼を申し上げます。

「ガバナー月信」の発行は毎月、結構なストレスになるものでした。1年を通じて色々な委員会に活動報告をお願いしましたが、特に石川信行文献資料室委員長には毎月ロータリーの本を紹介して頂き、読んで頂いた皆様の為になったのではないかと思います。1年間、お疲れ様でした。

そして地区幹事の一員とはいえ、(有)水野印刷の水野凡社長(恵庭RC)には、毎月大変な思いで「ガバナー月信」を編集・発行して頂きました。もう少しですが、どのようにお礼を言ったら良いのか、感謝の言葉も見つかりません。ありがとうございます。

結びに、このコロナ禍が出来るだけ早く終息することを祈念するとともに、皆様の社業の益々のご発展と、皆様のご健勝を心から祈念致しまして、1年間のご挨拶とさせて頂きます。ありがとうございました。



2019-2020年度 地区研修リーダーの終了にあたり

地区研修委員会

リーダー **安孫子 建雄**

(江別RC・PG)

小山 司ガバナー年度が始まって間もない2018(平成30)年9月6日に北海道胆振東部地震が発生しました。ちょうど前日に東京で研修リーダーセミナーがあり参加しておりました。

各地から予定者が集まり三木 明RI理事等の講師から休む暇もなくロータリー情報を聞かせていただき久しぶりの勉強になりました。

私のガバナー同期の本田博己PG(第2840地区群馬)が講師を務められ、リーダーの役割に触れ、話の最後に「地区研修リーダーは、自分がガバナーの時にやり残したこと、自分がやりたかったことをガバナーに押し付けてはならない!」と言われ、なるほどと思いその後のリーダーの戒めとしてまいりました。

その後、本田PGは当地区でのRLI研修講師に来道され、さらにRI会長代理の任を受け我が地区大会を成功に導いて頂きました。私としては同期の誇りとなる思い出になりました。福田武男ガバナーとは一年半にわたり準備から本番まであれこれと相談をお受けしながら拙い対応をしてまいりました。

いつも本田PGの戒めを受け、なるべく控えめに役目を果たしてまいりました。

今2019-2020年度を終えましたが、最後の最後

に「新型コロナウイルス感染症」にすっかり振り回されるとはだれも想像できない事であり、いまだ先を見通すことは困難です。今後どのような社会、世界になるか、もしくはどのように変革するかの変わり目に私たちは遭遇しているかもしれません。

人の命は常に変化します。世の中の変化もまた常に起こります。私たちは新たな社会をみんなで築いていくときにいるのではないのでしょうか。ロータリーもしかりです。

福井敬悟ガバナー年度は、思いがけない対応をしながら、なお会員の絆を大切に進まれることを願っております。

研修リーダーの務めを皆様のお力を頂きながら終えることに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



「友」誌はロータリーを知る教科書 ～第2510地区「ロータリーの友」地区代表委員を終えて～

ロータリーの友委員会

地区代表委員 **尾野 教 仁**

(千歳RC)

「頼みがあるのだけど…」当時の福田武男ガバナーエレクトから国際ロータリー第2510地区の「ロータリーの友委員会」地区代表委員の就任要請を受けたのは、ロータリアンになってまだ2カ月にも満たない一昨年8月末でした。「自分はロータリーの『口』の字も知りません」と固辞したものの、役者は相手が一枚も二枚も上手。結局、返す言葉もなくなり引き受けることになったのです。その後、他地区の代表委員の顔触れをネットで調べると、大半の方がRC会長や幹事、地区役員を経験しているベテランの方ばかりで、「あー、安請け合いしてしまった」と悔やんだものでした。

東京で開かれた研修会で自己紹介する機会があり、「自分はロータリーの友代表委員の歴史を変えられるかもしれません。なぜなら…ロータリアンになって、まだ1年もたっていないからです」と大見得を切った時、会場の「えー」という驚きの声は今も耳に残っています。全員が一通りあいさつを終えると、ファシリテーター(進行役)の方から「尾野さんのあいさつが一番衝撃的でした」と言われる始末。ただ、包み隠さず話したことで気持ちは楽になり、これで多少失敗しても言い訳が立つなと思いました。

その日の研修会は、RCの高齢化や会員減少をテーマに議論を深め、岩見沢RCの衛星クラブ設立や千歳RCがローターアクトと共同で親しみのある入会のしおりを作成していることなどを報告しました。新米ロータリアンながらも積極的に議論に参加したことで、ファシリテーターの方が最後に「代表委員というのは、年数や経験に関係なく、RCにどのくらい深く関わっているか、ということなのだ」というこ

とがよく分かりました」とお褒めとも労いとも取れる言葉をいただきました。「友」事務所の方からも後日、「ロータリアンにはベテランの方から入会間もない人もいます。新鮮な目でいろいろな提言をいただければ…」旨のメールをいただき、その後の活動の励みとなりました。

任期中は、「友」レポートを11回(5・6月合併号のため)提出、ロータリーの友月間中に2回の卓話を実施、東京での研修会に全4回参加し、力及ばずながらもどうか最小限の役割は果たせたのではないかと考えています。「友」レポートの中では、レイアウトの工夫や分かりやすい見出しの表記、新人ロータリアンには分かりづらいRC独特の用語表記の工夫、より親切な写真説明、記事掲載のスピード感、ロータリー活動を広く周知するための「友」誌の図書館への提供、未来を担うローターアクトの幅広い紹介、コロナ時代のテレワーク会議の実施などさまざまな提言をさせていただきました。

一方、補助金事業が固まった段階で、地区内RCに「友」誌への投稿依頼文の発信を考えていたのですが、その後のコロナ禍で結局、実現しないままになってしまったことが反省材料です。自分にとって「友」誌は、ロータリーを知る上で大切な教科書でもありました。事情があってRCを離れることになりましたが、全国8万9千人のロータリアンのうち、たった34人にしか与えられない代表委員に、経験も知識もない自分を推薦していただいた福田ガバナーに深く感謝し、貴重な経験を今後の人生の糧にしていこうと思っています。

2020-2021年度 地区研修・協議会について

次期地区代表幹事

小山 秀 昭

(札幌手稲RC)

未だ収束せぬ「新型コロナウイルス」の感染拡大防止の観点から、2020-2021年度会長エレクト研修セミナー(PETS)並びに地区財団セミナー・米山セミナーの開催中止に引き続き、4月12日に開催を予定しておりました2020-2021年度地区研修・協議会も、会員皆様の健康と安全を最優先とし、苦渋の決断ではありますが開催を見合わせることに致しました。

地区研修・協議会は、「ロータリーの目的」をクラブとして推進する次期クラブ指導者に対して、適切な指導・研修を通じて、クラブ活性化のために大切な「ロータリー情報」を提供しながら、その役割と責務を周知し、期待を伝え、チームとして大いに奮起してもらうことが大切です。

次期クラブ指導者がクラブのリーダーシップ・チームを築けるように、意欲を高め、また地区ガバナーエレクト・次期ガバナー補佐・次期地区委員会との協力関係を築く絶好の機会となることを目的と

する参加必須の最初の会議であります。

今回は皆様が一堂に会する機会を得ることが出来ない状況でしたので、PETS同様DVDと冊子を制作し、遅くなりましたが関係資料と共にお送り致しました。

「RI会長テーマ」「次年度地区目標」「次年度の留意点」をはじめ、「会長部門」「幹事部門」の役割と責務、そして「五大奉仕部門」の委員会概要と次年度活動計画に関して、とても分かりやすく作成されております。クラブ方針・クラブ戦略計画・クラブ各委員会の活動計画の立案に際して参考にさせていただきたく存じます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響下ではありますが、次年度第2510地区の各クラブの皆様におかれましては、地区研修・協議会を通じて得られる知識・情報をもとに、このような状況下においても適応し、活発な活動をご期待申し上げます。



収録風景



塚原房樹バストガバナー



小山司バストガバナー



福井敬悟ガバナーエレクト

恵庭ロータリークラブ 創立50周年記念式典開催

会 長 弘 中 司嘉子
実行委員長 村 本 満 男

令和2年6月24日(水)に恵庭ロータリークラブは、創立50周年記念式典及び最終例会を開催しました。

弘中司嘉子会長並びに村本満男実行委員長のもと、年度初めに実行委員会を設け、恒例事業である7月開催の「少年野球大会」(近隣中学生対象)・9月開催の「子供相撲大会」(市内小学生対象)を創立50周年記念大会事業として進めてきました。今年に入り創立50周年記念式典を5月24日に迎え事業を進めたところ、新型コロナウイルス感染症流行期による自粛要請のもと、実行委員会を重ねて開き協議した結果、予定していた記念式典も数度の延期を余儀なくされました。

そのため予定していた4月の「U9サッカー大会」(近隣小学生低学年対象)と5月の「恵庭クイズ王大会」(市内小学生対象)を、やむなく中止としました。

そのことにより記念事業として、恵庭市内各小中学校(13校)に備品購入費を寄贈、恵庭市には医療・福祉関係等の様々な分野に活用していただくための「フェイスシールド」4,800枚を寄贈いたしました。

創立50周年記念式典は、最終的に6月の最終例会に相合わせて会員のみでの開催として、広めの会場を選定し、通常例会の会場に於いても使用で

きるテーブル上にアクリル板シールドを用意、会員の感染防止のため3密対策を講じて開催致しました。

当日は多くの近隣ロータリークラブはじめ、諸団体の皆様方から祝電等をいただき、クラブ会員一同が創立50周年の喜びを感じたひとときとなりました。

当クラブは創立以来、様々な奉仕活動を通じ会員の親睦を大切に努めて来ました。特に青少年の育成に係わる活動には大きな力を注いで来たクラブであります。恵庭市も市政50周年を迎え、「恵庭市と共に歩む恵庭ロータリー」として、今後とも通年事業の継続と新たな奉仕活動を実践しながら、地域の皆様と共に歩む歯車の一角として奉仕活動に努めてまいりたいと思います。



弘中司嘉子会長挨拶



歴代会長表彰



懇親会を通じ50年を振り返る

オーストラリア森林火災への義捐金 ご協力へのお礼

青少年交換委員会

委員長 望月陽介

(札幌西北RC)

日頃より地区青少年交換委員会活動へのご支援
とご協力に心より厚く御礼申し上げます。

この度の当委員会がご協力をお願いしておりま
した「オーストラリア森林火災への義捐金事業」が
無事に終了致しましたのでご報告させていただき
ます。

新型コロナウイルス感染症対策の一環でクラブ
の例会休会も重なっている中、2020年2月～4月末
日までの期間において地区内31クラブ、個人会員
様より目標でありました750,000円を超える合計
1,046,926円ものご協力をいただきました事をこ
の場をお借りしてご報告の上、深く感謝申し上げま
す。

この皆様からお預かり致しました義捐金はRID
9685指定口座へ振り込みも完了し、先日RID9685
Susan Wakefield地区青少年交換委員長から受領
確認の報告とEメールでのお礼が届いております。
◇RI第9685地区 Susan Waketield 地区青少年交
換委員長からの礼状(Eメール)

Thank you so much for the amazing deposit into
our District bank account on 27/5/2020. The
District Governor Ms Kalma McClelland and I are
blown away by the generosity of our Rotary
friends in District 2510.

In due course our district treasurer will forward
a receipt to you.

Once we have allocated a suitable project for this
money I will again be in touch with you.

I certainly hope that we will have the opportunity
to meet together in person before too long.

Once again many many thanks for this most
wonderful gift.

Yours in Rotary Service

Susan

PDG Susan & PDG John Wakefield

RID9685 Rotary Youth Exchange Program Chairs

なお、派遣学生に関して全員が健康です。また、
そろそろ帰国の日程調整、経路変更等を開始する
時期です。

また、受入学生も健康です。恵庭にきています
ジョージアさん(ホストクラブ:恵庭RC、学校名:恵
庭南高等学校)はGW明けに第二ホストファミリー
に移り、特に問題はありません。札幌東RCのリゼッ
トさん(学校名:札幌山の手高等学校)は、当初6月
28日帰国予定でしたが、北海道～台湾～アメリカ
経由の航空機が北海道～台湾間欠航している為、
現在、日程やチケット共に調整中です。ビザの有効
期間には余裕がありますので大丈夫な状況である
ことをご報告致します。

ガバナー補佐退任挨拶



第1グループガバナー補佐
加藤 隆一
(羽幌RC)

ロータリーの素晴らしさを知る貴重な経験を

2019-2020年度RI第2510地区 福田武男ガバナーのもと、第1グループガバナー補佐を拝命し、ここに退任の時を迎えるに至りました。各種研修会を通じロータリーの素晴らしさを改めて知ることができ貴重な経験をした1年間でした。

公式訪問では各クラブに温かく迎えていただきました。また、福田ガバナーは公式訪問を通じて、会員の心に更なるロータリーの心が形成されるように配慮されていたように感じられました。クラブ訪問では、各クラブはそれぞれの地域に根差した活動に取り組んでおり、それらの活動に各クラブの歴史を感じることができました。この1年間で得た事を、今後のロータリー活動に生かして行く所存です。残念なことは、COVID-19の影響でIMの開催を中止する事態となった事です。次年度のIMでグループ内の親睦、交流がより活発になればと思います。

1年間、グループ内メンバー皆様のご支援ご協力をいただきありがとうございました。とりわけ各クラブ会長・幹事の皆様の温かいご理解とご支援に感謝申し上げます。

また、福田ガバナーをはじめ地区役員、ガバナー事務局の皆様にご感謝とお礼を申し上げます。



第2グループガバナー補佐
宇戸 啓隆
(赤平RC)

温かい友情に支えられた1年に感謝

まずは福田武男ガバナーの愛情溢れるご指導に心から感謝申し上げます。

ガバナー公式訪問には、全て公共交通機関で移動され、芦別RCでは「ロータリーの森」の視察、赤平RCでは日本一のズリ山階段777段を登り切り、滝川RCでは「ソラブチキッズキャンプ」の視察、砂川RCでは染谷昇会長のソメスサドル(革靴と馬具の店)でショッピング、そのかざらない人柄がとても印象的でした。

そして第2グループの会長・幹事の皆様には絶大なご協力をいただきありがとうございました。会長・幹事会の後の懇親会でのカラオケ合戦は楽しかったです。ガバナー公式訪問でも各クラブの皆様にご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。4クラブはそれぞれ個性溢れるクラブ運営に大変勉強になりました。

新型コロナウイルス感染症の影響でIM開催を中止せざるを得なくなり、1年かけて準備をしてきただけに残念でした。凶らずもテーマは「ピンチをチャンス」だったことが皮肉なことです。

つたないガバナー補佐でしたが皆様の温かい友情にささえられ、なんとか1年間努めることができ、貴重な体験をさせていただきました。皆様に感謝申し上げ、退任の挨拶といたします。



第3グループガバナー補佐
伊澤 珠樹
(岩見沢東RC)

学ぶことが多い1年に感謝！

2019-2020年度、第3グループのガバナー補佐を務めさせていただきました。福田武男ガバナーは情熱家であり、また努力家の方であり、一緒に活動させていただき、学ぶところが多々ありました。感謝申し上げます。

思い出深いことといえば、第3グループのインターシティミーティング(IM)を何とか成功裡に終えることができたことと、ガバナー補佐としてのクラブ訪問では、第3グループ各クラブの皆様方が、大変温かくご対応していただいたことを挙げたいと思います。第1回目のクラブ訪問の時は、あまり勝手の知らないクラブを訪問するという事で緊張の連続でしたが、どのクラブも非常にアットホームな雰囲気、2回目の訪問からは自分のクラブの例会出席とあまり変わらないくらいリラックスさせていただきました。

後期は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、各種会合はじめ、クラブ訪問もままならないことになりましたが、新年度、また再び第3グループの皆様方とお会いできることを楽しみにしております。

1年間、大変お世話になったことに感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



第4グループガバナー補佐
宮部 光幸
(札幌モーニングRC)

新型コロナ禍でIM開催中止は残念！

昨年7月、ガバナー補佐に就任以来、グループ内クラブの皆様にはご助力をいただきありがとうございました。心より御礼申し上げます。エレクト着任期間での『PMFスペシャルコンサートに中高校生を招待するプロジェクト』、そして今年度着任以降の『ロータリーに何ができるかプロジェクト』では大変にお世話になりました。特にIMではご多用中のところ会長・幹事・実行委員の皆様にはご苦労されました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

ここで、今年度の第4・5グループの会長・幹事会についてのお話をします。就任に先立ち、第4グループ・第5グループ担当の宮部、田澤両ガバナー補佐は今年度のIMについて以下の構想を持ちました。

構想は『ロータリーのビジョン声明①』と本年度マローニーRI会長テーマ『ロータリーは世界をつなぐ②』のロータリーの新しい風を受け止め、『クラブが地域社会又住民と手を携え、奉仕の実効性を高める』ことを今年度の活動の方向とする。その前提として、先ずは、グループのクラブが手を取り合い地域の未来形の奉仕を考える。

この実行の形として、『グループのクラブの活動を集約し、より大きなインパクトのある活動にすることが効果的である』との判断から『①クラブの活動を情報化し、②連携の可能性を探り、③今後の奉仕活動の未来形を考える』こと、そして今、改めて『ロータリークラブに何ができるか』と問いかけることが新しい時代のロータリー像を考える契機になると考え、これを2019-20年度のIMテーマとして提案しました。

この方針の実現のため、第1回の会長・幹事会以降、IMに向けての準備会を含む4度にわたる『クラブの活動を情報化し、連携の可能性を探り、今後の奉仕活動の未来形を考える』協議では、これまでとは異なる『各クラブの長期計画を話し合い、連携を考える場』となったと考えます。

残念ながら、2月末以降の新型コロナ禍により、このIM開催を終着点とする一連の活動は中止となりましたが、一年間の会長・幹事会、IM準備会の経過を文書化し、クラブの会員へ配信することとしました。今後のロータリー活動を考える上で各クラブの認識を知る場面であったと思いますので、ご一読ください。

最後に、この経過で再認識したことですが、各クラブはこれまでも『地域社会又住民と手を携え、奉仕の実効性を高める』と言う視点において、実効性においても、社会認知度においても大変な努力をされている非常に優れているということでした。しかしながら、グループ相互の活動の認識が不足しているために、活動が十分に社会認知されておらず、長期にわたる努力の賜物も当の札幌のロータリークラブ内でも記憶が薄れつつあることでした。このロータリーの遺産を改めて認識し、これからの『ロータリーの活動の基盤として15クラブは共有することの必要性』を実感した次第です。

いずれにしても、現下の大きな世代交代を迎える今、ロータリーの新しいビジョンづくりに向け、クラブ相互で地域の課題を共有し、新しいロータリーのステージを求め、第4、第5グループ15のクラブが手を取り合って今後とも頑張りたいと思っております。最後に、一年間お世話になりました福田武男ガバナーそして関係各位に心より感謝を申し上げます。

多くの好意と友情に支えられた1年

この1年間、福田武男ガバナーのもと、第5グループのガバナー補佐として、その大役を何とか務めさせていただきました。

この間ご指導いただきました福田ガバナーはじめ、地区役員の皆様、各クラブの会長・幹事、また会員の皆様に深く感謝申し上げます。

ガバナー補佐としては、本年度の地区目標達成に助力に努めるとともに、各クラブが効果的に運用されるため、各クラブ現況、奉仕活動等の実践状況をガバナーに伝達し、地区と各クラブのパイプ役を果たす役割を担ってきました。しかし年度の前半は、各クラブの訪問、ガバナー公式訪問の同行、地区大会等順調でしたが、年度後半に入り、2月以降、世界的未曾有な新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、各クラブの例会はじめ、地区の行事のほとんどが中止になり、残念ながら、十分な活動ができませんでした。

本年度当初から何度も打ち合わせを重ね、準備しておりました第4、第5グループ合同IMも一度は、新型コロナウイルス感染症の終息を祈って、延期したものの結局は、例年通りの開催にはなりませんでした。

しかしこの1年間は、自分自身がロータリーを深く学ぶことができ、非常に貴重な1年になりました。沢山の皆様の好意と友情に接することができました。本当にありがとうございました。



第5グループガバナー補佐
田澤 泰明
(札幌南RC)



第6グループガバナー補佐
筧 川 長 生
(小樽銭函RC)

貴重な経験が出来た1年間

福田武男ガバナーの下、ガバナー補佐としての1年間は武石忠俊、村田研一両地区代表幹事をはじめ、ガバナー事務局の皆様、そして第6グループ各クラブの会長・幹事、会員の皆様には感謝申し上げる次第でございます。

前期は順調な滑り出しで各行事を実践することができ、ようやくガバナー補佐としての行動・任務にも慣れ、後期に入り、これからという時に、“新型コロナウイルス感染症”による世界的な蔓延によりロータリー活動も停止状態に陥り、IM、新旧会長・幹事会、各クラブ定例訪問などが中止となり、私にとっても非常に残念で複雑な心境でした。現代人が未だかつて経験した事のない緊急事態宣言・自粛生活等を経験したものは何だったのでしょうか。

IM中止により何か消化不良の心境ですが、用意した原田義之先生(RID3360地区タイチェーンライRC元会長)の著書125冊と、例会中止の中、フェイスシールド等を各クラブ会長・幹事の方のご協力で無事納入、関係市町村や医療機関等に寄贈することができ感謝申し上げます。

後期は、十分な活動が出来なく心苦しく思いますが、2019-20年度は私にとって人生最大のニュースの連続でした。何とか幕を下げるのも皆様方ロータリアンのお陰と感謝申し上げます。

福田ガバナーの益々のご健勝と第2510地区全会員のご健勝とご活躍をお祈りして私の退任のご挨拶といたします。

註：原田義之氏の活動を本誌「ガバナー月信」(5月号P6)で紹介されています。



第7グループガバナー補佐
田 口 廣
(千歳セントラルRC)

IM開催中止は大変残念！

ガバナー補佐退任にあたりご挨拶申し上げます。

2019-2020年度福田武男ガバナーの下、昨年2月のガバナー補佐会議から始まり地区研修・協議会、会長・幹事会、ガバナー公式訪問、地区大会を実行し、ハードなスケジュールの中にもロータリー活動の充実感を感じていました。

しかし福田ガバナーの補佐になっているのか自問の日々でした。IMは本年4月に予定されていましたので、年度替わりの7月から毎月、千歳セントラルRCの高木昌人会長、大下和志幹事、関根悟実行委員長と4名で万全を期しての計画でした。しかしながら、今回の新型コロナウイルス感染症の影響で非常に残念ですが断念せざるを得ないと判断しました。予定されていたテーマ『震災と国際奉仕』で、講師に地区の国際奉仕委員会の谷口正樹委員長、財団奨学金・学友委員会の出村知佳子委員長を招いてのIM予定でした。お二人には講演予定の内容を冊子にまとめてもらい第7グループメンバー全員に行き渡るように各クラブに発送しました。

このようにロータリー活動をする中でロータリーならではの友情、とくにガバナー公式訪問ではロータリーの温かさを感じる事が出来ました。ご協力頂きましたメンバーの皆様には心より感謝申し上げます。とにかく今は1日も早くコロナ禍が終息することを願うばかりです。福田ガバナーには年度の約半分がコロナ禍に見舞われ、本当にご苦労様でした。

2020-2021年度福井敬悟ガバナーはじめ第7グループ橋功記ガバナー補佐(北広島RC)、皆様には厳しい状況の中でのスタートになりますがエールを送ります。第7グループの皆様には感謝申し上げ、1年間ありがとうございました。



第8グループガバナー補佐
亀 田 淨
(三石RC)

多くの事を学んだ1年に感謝

第8グループとして年度当初、「クラブの活性化」のために(1)会員増強 (2)ロータリーの目的と意義の強化 (3)青少年活動の強化 (4)事業の継続の4つの目標を掲げ、前期7月～12月、後期1月～6月と二期に分け、その目標達成に努力してまいりました。しかし、後期につきましては新型コロナウイルス感染症拡大の影響から各クラブはウイルス感染防止意識向上と防止への援助に全ての活動が抑制されたところです。

その中で、「第8グループIM」の開催、また三石ロータリークラブ創立50周年記念式典のプログラムにおいて講話されました丸山淳士パストガバナー(札幌真駒内RC)の「コロナウイルス」についての講話は、参加されたロータリアンから賛辞を受け、私共の「新型コロナウイルス感染症」に対する意識を高めることとなりました。

ガバナー補佐としては無為無策のロータリーに対する理解不足の私をお助けいただいたロータリアンの皆様にお礼を申し上げ、今後「共助」をもって奉仕活動が出来るよう努力を重ねたいと思っております。



第9グループガバナー補佐

荒井 孝 亘
(室蘭東RC)

思い出深い一年間、懐かしく思う

福田武男ガバナーのもと、ガバナー補佐を一年間務めました。当初は緊張感の中、第9グループの結束を図ろうといろいろな企画しました。しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大によって後半は静かに推移をみることになりました。6月20日(土)に懸案でした新旧会長・幹事会を開催することができ、次年度のガバナー補佐にバトンタッチすることができました。

前半は各クラブへの挨拶回り、会長・幹事会の開催そしてガバナー公式訪問と慌ただしい前半戦でした。すぐに2月2日開催の第9グループインターシティーミーティング(IM)の企画と準備に追われながら新年を迎えました。

IMは、札幌国際大学教授吉岡宏高氏をお招きして「日本遺産 炭鉄港」をテーマにご講演をいただきました。参加者からは大変好評をいただきました。後期はグループ内全てのクラブで休会状態が続き、例会場が休館になるなど休会を余儀なくされました。

また、福田ガバナーからの要請で、「フェイスシールド」を第9グループ全体で5,160セットを医療機関に寄贈しました。

最後に福田ガバナーとご一緒した「3日連ちゃん、6クラブ訪問」を懐かしく思い出されます。一年間無事に終りました事に感謝です。



第10グループガバナー補佐

水野 建
(森RC)

人生一生研修！

一年を振り返りガバナー補佐引継ぎ、研修会と約一年半の期間となります。森RCに入会して12年を迎え、初めての地区出向となり緊張の中のスタートとなりました。

担当クラブを前任のガバナー補佐と回り、7月より周年行事、ガバナー公式訪問ではたくさんさんのクラブを回り忙しい日々ではありましたが、有意義な時間になったと思います。

たくさんのメンバーと会い、交流して、各クラブを回ることで、それぞれのクラブの特徴、事業などを聞き、いろんな情報を得る事が出来て大変良かったと思っています。

後半に入り2月からは、新型コロナウイルス感染症拡大による自粛期間で各クラブを回ることが出来なくなり、第10・11グループ合同によるIMも開催出来ず残念ではありますが、6月に担当クラブを回り最後の会長・幹事会も出来て無事任務を終了する事が出来ました。

「人生一生研修!」、クラブでこれからも頑張って活動したいと思います。最後に福田武男ガバナーご苦労様でした。また、ご協力下さいました各クラブ会長、幹事はじめ会員の皆様へ感謝します。有難うございました。



第11グループガバナー補佐

成田 豊
(函館北RC)

ガバナー補佐としての経験をこれから活かす

RIテーマ「ロータリーは世界をつなぐ」、福田武男ガバナーの「自分を見つめなおし、若者を支援し、ロータリーの未来を語ろう」のもと、2019-2020年度を開催し、上半期は順調にクラブへのガバナー公式訪問を行い、IM開催の準備と諸行事等の予定を消化いたしておりましたが、下半期に入り、2月末には新型コロナウイルス感染症の発生により下半期予定の行事が全て中止になり、ガバナー補佐としての任務も中途半端に終了致しました。

ガバナー補佐としての経験、研修を生かして微力ではありますが、第11グループ、そして所属クラブの発展に努力してまいり所存です。

一年間、福田ガバナーはじめ、地区幹事の皆様、そしてガバナー補佐の皆様へ感謝として退任の挨拶といたします。



第12グループガバナー補佐
橘 勇治
(苫小牧北RC)

COVID-19対策支援を着実に

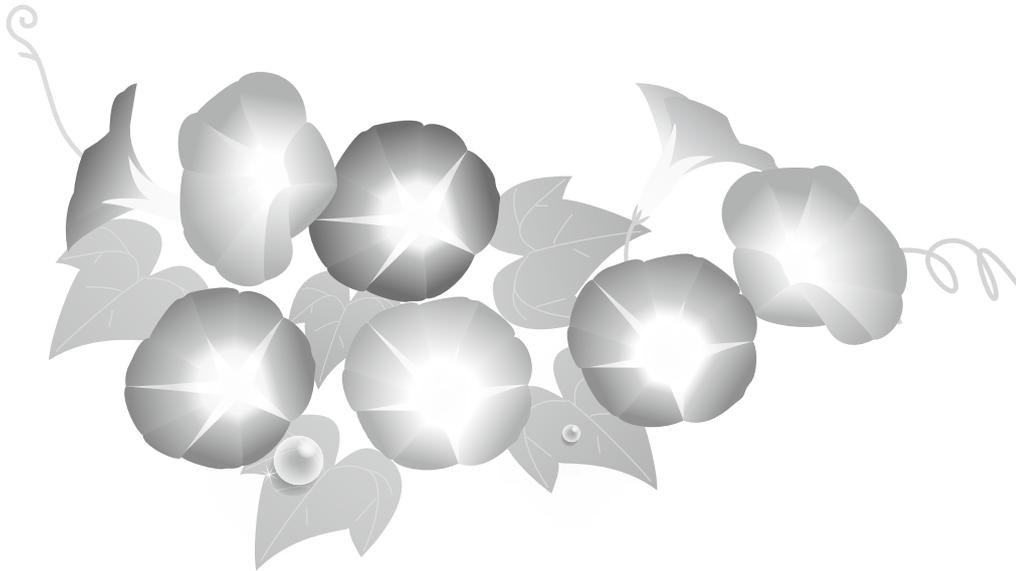
2019-2020年度、第12グループのガバナー補佐を務めました苫小牧北RCの橘勇治です。

例年行われていますロータリー活動が上期と下期で大きく変わりました。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が日本を含め、全世界に蔓延し、大きな影響がありました。

上期においては、予定通りガバナー公式訪問、地区大会が行われ、グループ内各クラブにおいても順調にロータリー活動が行われました。下期にはIM・苫小牧北RC創立50周年記念式典に向けて準備を進め、2月22日(土)、前日まで開催の検討を重ね、特に、マスク着用、消毒液の使用、3密防止などの感染防止策を行い第12グループ内に感染者が居ない事を確認し、開催致しました。結果として出席者からの感染者が発生せずに終了しました。

今日現在COVID-19収束に向けての兆しが見えていませんが支援に向けての活動が着実に進んでいます。

私の当年度の活動を終えましたが、ご協力をいただきましたメンバーの皆様ひとり一人に感謝申し上げて終了報告と致します。ありがとうございました。



2019-2020年度 地区委員会活動報告



委員長
熊澤隆樹
(小樽RC・PG)

ロータリー財団委員会

2019-20年度の第2510地区のロータリー財団を振り返ってみますと、私にとって3年の任期の初年度にあたります。財団の役員として寄付推進(ファンドレイジング)と補助金活動がありますが、財団補助金委員会、ポリオプラス委員会、財団奨学金・学友委員会、財団資金推進委員会の4つの小委員と協力して、ガバナーの指揮の下で財団活動の計画、調整を行って参りました。

初年度は財団に集められた資金の4分の1が各クラブの奉仕活動のもとになり、どのようなものに使われていたかを理解してもらうために11月の「財団月間」に、私は新札幌・砂川ロータリークラブで卓話を、また出村知佳子副委員長にも卓話をお願いしました。

また、財団の「年次寄付ゼロクラブ」のためには12のガバナー補佐の方々に協力を頂き目的を無事達成できました。この紙面をお借りして感謝を申し上げます。

財団の資金は奨学生の派遣にも大きな力を発揮してくれています。グローバル奨学生として重井真琴さん(スウェーデン 水と衛生)、清水一紀さん(イギリス 疾病予防・治療)、地区補助金奨学生として覚地頌春さん(ドイツ フリージア語)、石井貴大さん(フランス 応用数理学)として留学されました。

こうした活動の状況をできるだけ各ロータリークラブへお知らせすることの大切さを感じており、これまで以上にガバナー月信などを通してお話をさせていただきます。そして財団の資金の有用な使用状況を知らせて参ります。



委員長
武部 實
(札幌南RC・PG)

会員増強委員会

福田武男ガバナーから三年委員長の会員増強委員長を指名され、昨年7月ANAクラウンプラザホテル千歳にて「会員増強セミナー」を開催致しました。セミナーでは、岩見沢RC・当別RC・小樽銭函RC・千歳RCの各クラブから会員増強の事例発表を頂きました。また、嵯峨義輝PGからは岩見沢ネクストロータリー衛星クラブ誕生までの経緯とその趣旨を詳しく報告して頂き、今後の会員増強に向けての大きいヒントを頂きました。

財界さっぽろ舟本秀男社長(札幌南RC会員)のご厚意で、2016年から3年間、月刊誌「財界さっぽろ」で毎月2ページを無料でご提供頂きました。第2510地区内の全てのロータリークラブに取材に行き、各クラブの奉仕活動を紹介して頂きました。更には、誕生したばかりの札幌ライラックRCも追加取材して頂きました。

私は、ガバナーとしてのクラブ公式訪問で、どのクラブも素晴らしい奉仕活動をされていることを知りました。第2510地区内の各ロータリークラブの奉仕活動を地区内全てのロータリアンに知って頂く、更には道民の皆さんにロータリーを理解して頂く、公共イメージ向上を意識致しました。

財界さっぽろ掲載内容を小冊子として発刊する事かねて提案し、ご理解して頂いております。現在、武蔵輝彦広報・ICT委員長等と検討を重ねているところです。又、A4版チラシ一枚を各単位クラブ独自の会員勧誘資料の作製の提案もさせて頂く予定です。小冊子は、新型コロナウイルス感染症の事情で作業が多少遅れていますが、福田ガバナー年度事業として間もなく発刊出来ることをお知らせし、委員会報告と致します。



左：表紙 右：会員勧誘チラシ例



委員長
嵯峨 義輝
(岩見沢RC・PG)

地区拡大委員会

RI日本事務局からのクラブの新設、解散等の情報配信を見ていると、新設の多い地区、解散・合併の多い地区が、その地方の経済力、人口動態に大きく影響されていることがよく分かります。各クラブが会員数の維持に多大なるエネルギーを費やしている現況下で、クラブの拡大の難しさを痛感します。

そこで今年度は、福田武男ガバナーの方針でもある“衛星クラブ”の設立へ向けた情宣をしてきました。残念ながら今年度の衛星クラブ設立はありませんでしたが、他地区からは次々と設立の情報が入ってきています。当地区でも次年度以降、衛星クラブの設立があることを祈念します。



委員長
渡邊 恭久
(滝川RC・PG)

立法案検討委員会

今、いろいろの物やいろいろな事が既に変ったのか、新型コロナウイルス感染症騒動のように変わろうとしています。自然その物の在り方が変わり、動植物の生きる環境も変化し、人も人の関わりや、処し方が変わってきましたし、その変化と戸惑いが各所で混乱の渦を作っているのです。もっと小さい比喩で言いますと、ロータリークラブは毎週1回、立場が異なる異業種の方と膝を突き合わせ食事を共にしながら世間話のできる「例会」が100%出席に届き、職業の貧富観を職業奉仕の哲学とともに「職業奉仕の理」を大切にしてきたロータリーと「職業分類」のもとで業界からただ一人の会員制度です。

世界のロータリー情報と「ロータリーの友」に、クラブ会員を繋いできた毎週発行のクラブ会報は大切な役割を担ってきました。しかしその時代は終わり、これまでのロータリーから時代に相応するロータリーを作るべく議案が、RI理事会を経て決議審議会や規定審議会に提案されたとのことでした。その結果、会員増強にローターアクトを参加させること、クラブ例会の基準をクラブに、会員資格の厳格さを緩め職業分類などに柔軟性を持つように提案がなされた事です。我々がこの時代の大きな変化の中にいることを認識し、単なるイエス・ノーでの判断だけではなく底に潜む思いや、この後の展開を見つめ判断すべきものだと思っております。今期の第2510地区からの決議案提案はありませんでしたが、次期に向けての議案の提供がなされることを祈って報告いたします。

◇2019-2020年度第2510規定審議会代表議員として、2014年丸山淳士規定審議会代表議員の補欠議員に指名委員会から任命され、2017年丸山淳士代表議員の任期満了に伴い、2017年から2020年までの規定審議会代表議員に就任いたしました。

以来3年間、シカゴで開催されます2019年の規定審議会に向けて4回の研修会がもたれ、資料による学習の後、最後には理解度の試験で、定められた得点に達しなければ旅行費用が支給されないと驚かされてセミナーに臨んだものです。

会場はシカゴイリノイ州のハイアットリージェンシーホテルシカゴで、足の高いベッドがあるシングルユースのツインルームでした。会議は議事法に基づく速いテンポの議事運営、情報機器とひな壇の動きに目が外れないように、追われるごとくに記録をしていきました。

進め方は提案4分、セコンド、反対意見、採決の順ですが、定められた時間のオーバーなどで強制的にマイクが切れ、残念ながら尻切れトンボの発言も多くありました。小生の手元は、議案をパソコンのタブレットに、採決をiPhoneなどで慣れない機器を必死で作動させて記録していったものでした。117件の議案で採択は46の半分以下の40%、否認が56でした。

4月13日が代表議員登録日で、翌日の14日～18日までの9:00～17:00が本会議(午後自由日がいくつかありました)でした。

帰国が4月21日でしたが、地区より審議会報告書を5月23日までにガバナーに提出するように指示され、1ヶ月の時間の中で記録の整理と原稿書き、製本と発送を、時に間に合わせることにただ終始したことから、構成の整理や校正が足りず不十分な報告書になった事に反省をしているものです。

日本から各地区を代表してきた代表議員のほとんどはパストガバナーで、中にはガバナー同期が集まり、ひとかたまりになったものの、他ではバラバラで交流もなく個人的に連れ合っって食事に行くことはあまり見かけませんでした。

さて、時代や環境が変わりつつあるこの時に、規定審議会に送り出して頂いたことや、ミシガン湖の春を感じさせて頂いたことに感謝しながら、思い出の報告といたします。



委員長
国立金助
(函館RC・PG)

RI国際大会推進委員会

<委員会目標>

- ① 2019-2020年度 第111回国際ロータリー年次大会への参加登録
(6月6日～6月10日までの5日間・アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市で開催)
- ② 2020年6月7日 第2510地区北海道ナイトの開催

当委員会は森川元・地区代表幹事を中心に幹事等のご協力のもと2年前より準備して、参加されます皆様のすばらしい思い出となる事を願い、北海道ナイトを憧れの人気ホテル「ハレクラニ」の「ハウテラス&ラナイ」に決定し準備してまいりました。

また、ホノルルハワイ世界大会の登録参加要請につきましては、福田武男ガバナーの絶大なる協力のもと第2510地区においては113名の実質登録を頂きました。参加申込み者数は当地区では海外大会登録過去最高でした。

しかし、結果は誠に残念ですが、新型コロナウイルス感染症の問題で世界大会が中止になり、誠に残念です。

次年度は台湾・台北市での開催となります。皆様と台北の地で会いするのを楽しみに致しております。呉々もお体には気をつけて元気でお会いできる事を楽しみにしております。



委員長
渡邊葉子
(札幌西北RC)

RLI委員会

小山司ガバナー年度(2018-2019)に、RLI日本支部加盟、RLIセミナーパートIを初めて開催し、今年度7月20日パートII・8月17日パートIIIを開催しました。全パートを終了された20名の中から10名の新しいディスカッションリーダー(DL)の皆様を迎え10月・11月・2月と3回にわたる研修会を開催いたしました。

また2月に第2500地区のDL研修にも参加可能な方に出席させて頂き、本田博己ファシリテーター委員会副委員長の講義も受け、3月15日・5月31日・7月18日と3回のセミナー開催予定をしておりました。3月の開催に向け2月16日新DLの皆様を含め最終打ち合わせ、DL研修を行いました。

ここまでは委員・DLの皆様全員で前向きに、活発に取り組んでまいりましたが、その後、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、3月開催は延期、5月開催も中止せざるを得なく全く身動きの取れない状況が続きました。

せっかく新しい委員会が発足し、地区内の全会員でリーダーシップ・奉仕・会員増強の3本柱を構造的、体系的に学び直し、各クラブの強化に繋がるセミナー開催を目指しておりましただけに非常に残念です。

しかしながら、福井敬悟ガバナー年度に向けて新しい動きが出てきておりますのでご期待頂けたらと存じます。

RLI=Rotary Leadership Institute ロータリー・リーダーシップ研究会



委員長
石川信行
(札幌手稲RC)

文献資料室

前年度の文献資料室 岩崎修一委員長より引継ぎ、この一年間、文献資料室を担当させて頂きました。ロータリー歴の浅い私が委員長を引き受けるにあたっては迷いもありました。ですが、委員をさせて頂いたなかで、「時代に合った文献資料室の運営の仕方があるのではないか」ということも考えるようになっていきましたので、好機と考えお引き受けいたしました。とはいえ、過去の経緯もあまり知らないままに引き受けましたので、初年度は勉強の一年と位置付けました。タイミングよく福田武男ガバナーから「ガバナー月信に文献資料室の蔵書の紹介を」というお役目をいただきましたので、一年間、蔵書を紹介させて頂きました。その過程を通して、現存する文献資料室の蔵書の体系的なものもおぼろげながら理解できました。

下期からは委員会メンバーと改革に向けての議論を進めようと考えておりましたが、予期せぬ新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、委員会開催もままならず、不完全燃焼の活動となってしまったことは不徳のいたすところです。

次年度については、私なりにまとめた問題点について、委員会メンバーや地区役員と検討し、「時代に合った文献資料室の運営」に向けた方向性を見定めていきたいと思っております。

多くの機会をいただいた福田ガバナー及び力不足の委員長を支えていただきました委員会メンバーに感謝するとともに、引き続き次年度も邁進していきたいと思っております。一年間、ありがとうございました。



委員長
前田 浩人
(苫小牧RC)

学友委員会

2019-20年度地区学友委員会の活動といたしましては、6月22日、ロイトン札幌を会場に「財団学友総会・財団奨学生壮行会・懇親会」が開催されました。第1部では、財団学友会総会が行われ、当地区学友会会長が鈴木沙織会長から、鈴木洋史会長に交代した旨が伝えられ、承認されました。

また、当地区財団学友会会長であり日本ロータリー学友会幹事としても活躍されている鈴木沙織会長のご尽力で日本ロータリー学友会第9回全国総会札幌開催が決定していることから、当地区財団学友会メンバー及びロータリアンへの協力要請がありました。第2部では財団奨学生壮行会が行われ、清水一紀さん(イギリス)、重井真琴さん(スウェーデン)の2名の奨学生紹介およびプレゼンテーションが行われ、将来の展望について熱く語っていただきました。

また、10月26日、27日の両日、センチュリーロイヤルホテル札幌において日本ロータリー学友会第9回全国総会が開催されました。参加者は全国21地区から総勢84名の参加をいただきました。RI本部より来道されたBill Rintz氏による「地区学友委員会の位置づけと学友会支援について」というテーマでご講演をいただきました。翌日早朝から奉仕活動として街角清掃を行い、その後「学友会の奉仕活動」をテーマにテーブルディスカッションを行い、多くの学友の皆様と話をする機会を持つことが出来たことや各地域における学友会活動について参考になるお話を聞くことが出来たことは貴重な経験でありました。

年が明けまして2月1日ロイトン札幌を会場に「第4回学友交流会・帰国報告会」が開催されました。第1部の学友体験報告では「学友とロータリー」をテーマにインターアクトOBの佐々木ななみさん、ローターアクト学友の石川 樹さんに発表していただきました。第2部の帰国報告会では、青少年交換学友・ローテックスの荒 春樹さん、工藤未来さん、坂口綾菜さん、荒 幹彦さんの4名の方々に留学中の体験談についてご報告いただきました。財団学友からは、清水一紀さん(2019-20年度グローバル奨学生・ロンドン大学)、重井真琴さん(2019-20年度グローバル奨学生・スウェーデン農業大学)のお二人からビデオレターという形で現況報告をいただき、今年度の学友交流・帰国報告会を無事終了することが出来ました。その後、学友会ニューズレター編集委員メンバーの協力のもとニューズレターVol.4を完成させることが出来、これをロータリアンメンバーの皆様へ配布することで学友会活動についてアピールができたと考えております。

また、今年度6月に開催を予定していました財団学友会総会及び財団奨学生壮行会が新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い延期されたことは、とても残念なことでありましたが、今年度予定されておりました学友委員会の事業を概ね終了することが出来ました。

最後に、今年度の地区学友委員会活動におきまして学友委員会委員・関係者の皆様及び財団学友会、米山学友会の皆様にご多大なご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。



委員長
岡崎 芳明
(小樽南RC)

クラブ奉仕委員会

地区のクラブ奉仕委員会も試行錯誤の中、やっと2年目を終える事が出来ました。しかし関わる程にクラブ奉仕委員会は難しい委員会だと感じております。

クラブ奉仕委員会はクラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員がとるべき行動に関わる事を考えていく委員会ですが、ロータリークラブは各クラブ事に1年間務める会長が率いる組織であり、毎年独自の考えの中で運営される為、前年度の会長が良いアイデアでクラブ運営をしても次の会長がその事を重要視しない場合は途切れてしまいます。それがロータリーの良い所でもあります。事業を進める上での永続性を保つ難しさがあるといえます。

また、クラブも100名の会員がいるクラブもあり、10数名の会員のクラブもあり、それぞれに抱える問題も違い、出来る奉仕活動も違います。そうなるとクラブ奉仕の形もそれぞれになります。奉仕活動にしても一つの形を指示してこの様にすることが良いと発信出来ません。つまり各クラブが毎年会長を中心としてその年に出来るクラブ奉仕活動を考え実行して頂く事に対して補助をすると言う事に尽きる事になります。

私はもう1年、地区クラブ奉仕委員長を務める事になっていますが、次年度は久しぶりに皆様にアンケートをお願いし、その結果を参考にガバナー補佐の皆様のお力もお借りして皆様のクラブ奉仕活動に少しでも役立つ活動をと考えております。1年間ありがとうございました。



委員長
武蔵 輝彦
(岩見沢RC)

広報・ICT委員会

ロータリーを多くの人に知ってもらうことがロータリークラブの活動の飛躍につながり、理解者・協力者を増やす事が会員増強にも結び付いていきます。「私達にとって効果的な広報活動とは」を模索し、実践する一年でした。

重点的な項目としては

1. 「マイロータリー」登録推進のサポート
2. 地区ホームページの充実
3. 各クラブ、地区委員会と連携した広報

を中心に活動してまいりました。

「マイロータリー」については、マイロータリーのトップページにつながるQRコードを表示したカードを作成し、地区大会でPR活動を行いました。

また、他の機会も活用しながら推進に努めましたが、6月末の登録状況は前年度末から微増の33.16%に留まりました。100%登録のクラブは栗沢RCのみとなりました。今年は委員会への要望がなかったことや、新会員入会時のフォローが出来なかったためと思われます。

ホームページの充実、および連携の部分では委員会の各委員が分担し、地区委員会との連絡体制を構築すべく活動し、各委員会からの情報や規定審議会報告書の掲載を速やかに行いましたが、下期はCOVID-19の影響でほとんど活動できず道半ばという結果でした。

反省点は多々ありますが、継続が必要な事項ばかりであり、皆様のご協力を引き続きよろしくお願いします。年間たいへんお世話になりました。ありがとうございます。



ロータリー情報委員会

2019-2020年福田武男ガバナー年度のロータリー情報委員会委員長2年目として、どの様に進めて行ったら良いのか、相変わらず手探り状態の委員会でしたが、2019年の後半から、怪しい新型コロナウイルスの感染が始まり、私としては、きっと中国の内部で終息して、日本への影響は少ないのではと甘い考えを持っていましたが、年が明けると様子は一変し、3月には、世界への感染拡大がはじまり、世界と人の繋がりが強くなっている現代、交通機関も発達していることもあり、日本や、ヨーロッパへどんどん拡大していきました。

国際ロータリーは、3月19日に、ハワイ・ホノルルで行われる予定のロータリー国際大会の中止を発表されました。ロータリー情報委員会のFacebookで、中止の情報を発信したところ、直ぐに「悲しいね」のマークが返信されてきました。国際大会に向けて、北海道ナイトなどの準備をされて来た、地区のRI国際大会推進委員長の国立金助PGや会員の皆さんには非常に残念だっただろうと感じました。その後も、新型コロナウイルス感染症に関係した情報が、国際ロータリーから発表されると直ぐに、ロータリー情報委員会のFacebookで発信しました。更に、ロータリーの地区同士の支援も、第2510地区のニュースとして掲載させて頂きました。

最後に、印象に残ったのは、この新型コロナウイルス感染症の中でも、ロータリーの繋がりは重要と言うことで、ロータリーの歴史始まって以来、初の試み「2020ロータリーバーチャル国際大会」が開催され、参加者は思ったほど多くはありませんでしたが、有意義な大会になりました。

新型コロナウイルス感染症に翻弄されてきましたが、やっと、クラブの例会も行われる様になりました。通常を取り戻すには、もう少し掛かりそうですが、次年度、私は、地区のICT委員会委員長と言うことで、引き続き情報発信をさせて頂きますのでよろしくお願いします。



委員長
堀元 雅司
(札幌南RC)



委員長
坂井 治
(千歳セントラルRC)

職業奉仕委員会

本年度、職業奉仕委員会では敬遠されがちだった職業奉仕に少しでも興味を持っていただけることを目標に「わかりやすい職業奉仕」をテーマに活動をしてまいりました。

まず始めに地区研修・協議会の分科会の担当を委員それぞれにお願いしてテーマごとにプレゼンテーションを行いました。

次に年間の「ガバナー月信」に私を含む6名が分担してテーマごとに投稿しました。内容もただ文章を載せるのではなくイラストも交えてクイズ形式にして少しでも興味を持って読んでいただけるように工夫をしてまいりました。

並行して各クラブに職業奉仕アンケートを行いました。ワードを使って通常の記述式のものとはスマホなどからも回答できるようにQRコードをつけてWebから回答できるものの二本立てにしました。

記述式のものとはWeb回答もの内容を同様に作ったためクラブに対する設問と重複してしまった部分もあり個人向けにならなかったことが反省点として残りました。

後期に入り2月27日に予定していた委員会が新型コロナウイルス感染症の影響で中止になり、その後メールによる会議やzoomを使ったWeb会議を重ねアンケート集計などを進め6月下旬に各クラブ宛に結果をメール配信させていただきました。

外出自粛要請が解除になりました6月19日によくオフラインでの会議を開催することができ、最終委員会をとても楽しく終えることが出来ました。

地区内クラブ及び各委員の皆様には謝意を表しまして報告とさせていただきます。一年間ありがとうございました。



委員長
高山 和宏
(札幌東RC)

社会奉仕委員会

今年度の主な奉仕活動は、昨年度に引き続き胆振東部地震の支援活動が中心となりましたが、胆振東部3町を訪れるたびに、時間の経過とともに世の中の支援の意識が薄くなってきているのを強く感じました。確かにインフラ整備については、これから時間はかかるものの、国や道の予算が確保され事業が粛々と実施されています。

しかしながら、現実には町民の方々の生活が震災前のように戻れているかと言いますと、そうではありません。そういった状況を鑑みながら、今年度は福田武男ガバナーのリーダーシップのもと、町の予算でもなかなか予算付けが十分に行き届いていない教育や福祉といった分野を中心に、被災地現場の声に耳を傾けながら、支援活動を行ってきたところです。その中でも、本年3月から4月にかけて予定していました早来中学校仮設校舎への机・椅子の寄贈や、音楽室へのエアコン設置は、新型コロナウイルス感染症の影響を心配しましたが、関係者の皆様のご協力のおかげで、無事に実施することができたことが一番印象に残っています。残念ながら、学校が休校となったため、直接生徒たちの喜ぶ姿を目にすることはできませんでしたが、安平町教育委員会、安平中学校の校長・教頭先生からは生徒たちの喜びの報告と、今回の支援に対して感謝状を頂戴いたしました。次年度は支援活動のまとめの時期になるかと思っておりますので、引き続き会員皆様のご理解ご協力をお願いいたします。



委員長
谷口 正樹
(滝川IRC)

国際奉仕・VTT委員会

まずは、本年度もすべての国際奉仕事業が無事に完了したことを関係した地区内25クラブの皆様、地区委員会メンバーの皆様、検証ツアーに参加されました皆様に深く感謝いたします。委員長として4年目の事業でありました。本来であるならば3年周期の委員長ですが、諸般の事情において、エクストラで1年間いただいたことにも深く感謝いたします。

今年度もタイ国第3340地区ノンカイRC、第3350地区バンコククロントイRCの協力により、タイ東北部の学校へのクリーンウォーター事業・図書館事業・奨学金事業・職業訓練事業、また新たにカンボジアの学校において学校環境整備事業を展開しました。20年に渡るクリーンウォーター事業は昨年まで東北部のノンカイ県において展開していましたが、私たちの草の根活動が地域行政を動かし多くの学校に浄水器が設置されたことにより、隣県のブンカーン県の小学校でも展開しました。本年度も事業展開したすべての学校へ訪問しましたが、どの学校においても深い感謝をいただき、そして子供たちの笑顔をいただき、毎年でありますがこの事業に関わったことに誇りと感動を感じます。

今年度検証ツアーは2020年1月29日より2月3日の日程にて開催しました。まさに新型コロナウイルスの感染拡大の直前であり、ツアーの開催は本当にラッキーなことでありました。本来であるならツアー終了後、参加された皆様と次年度に向けた方向性について協議する場があるのですが、それができないのが心残りであります。次年度以降「ウイズコロナ」の中、新たな国際奉仕委員会が中心となって、この感動ある事業を繋いでほしいと思っています。

最後に、長年に渡り地区国際奉仕事業にかかわり、そして4年間も委員長をさせていただき、関係されたすべての皆様へ深く感謝いたします。本当にありがとうございました。



委員長

山口 史朗
(札幌東RC)

青少年奉仕委員会

今年度の後半は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、予定していました行事などが軒並み中止になりました。楽しみにしていましたアクターや交換留学生などの気持ちを考えると残念な思いですが、感染者が出なかったことには安堵しています。

今年度の一番のトピックスは、地区大会の並行プログラムです。SDGs(持続可能な開発目標)セミナーと「菓子工房もりもと」での工場見学・和菓子作り体験の2部構成で行いました。SDGsセミナーは、札幌開成高等学校の4人の生徒をファシリテーターに迎え、入門編として、理解を深め、自分達の問題として受け止めてもらうきっかけとする事を目的に、カードゲーム形式で行いました。自分達ならどういう街を作るか?チームの仲間でディスカッションしながら、環境への負荷や資源の有効活用などを考え、楽しく学んでくれたと思います。「菓子工房もりもと」での工場見学・和菓子作り体験では、和菓子の歴史を学び、精巧な菓子作りの機械に感嘆し、使用する食材の量に驚き、貴重な体験となったようです。練り切り作りでは、和菓子の世界が持つ伝統や、美しい季節感に魅了され、出来上がったお菓子を頂戴することが出来、喜んで持ち帰っていました。概ね好評をいただき、ご支援ご協力いただきましたロータリアンの皆様並びに関係各位に心から感謝と御礼申し上げます。

今年度を振り返ると、まだまだ課題もありますし、新型コロナウイルス感染症の影響の中で、次年度に繋がる新しい方法も模索していかなければなりません。この1年間の感謝とともに、次年度への思いを新たにしています。



委員長

望月 陽介
(札幌西北RC)

青少年交換委員会

2020年1月より新型コロナウイルス感染症が世界的に拡散した影響で地区ロータリークラブの活動と同じく青少年交換委員会においても異例の年度となりました。

1月下旬からは新型コロナウイルスの感染拡大により実質的には2月からロータリー一年度を終えるまで受入学生・派遣候補生に関わる事業活動の中止を余儀なくされました。

交換事業に関しては、2019年8月より米国から1名、2020年1月、豪州から1名の受入学生が来日し、派遣生は2019年8月に米国へ2名、豪州へ1名の交換を行いました。また同時に2020年夏派遣予定の4名の派遣候補生にはオリエンテーションを含め派遣に向けて準備を進めておりましたが、2020-2021年の交換事業は交換先国の事情により現在、豪州を除き交換が中止となったことは残念です。

新型コロナウイルス感染症の拡大が中国から日本に、そして欧州・米国等の各国へ派生する中、RYJEMから受入学生の出国要請があり、続いて派遣生においても帰国要請がありました。どちらも出国・帰国することなく地区委員会としては交換学生を見守りながらの活動となりました。幸いにも派遣中の滞在地区である米国NY州・ワイオミング州、豪州においては感染拡大が深刻でない状況でしたが感染の警戒と注意が必要な中、交換学生は通学高の休校や外出自粛など多くの規制の中で交換プログラムを続けてきました。

派遣学生3名はプログラムを終了して7月中旬に全員が帰国予定、プログラムを終了した受入学生1名は6月末に本国へ帰国しました。何よりもこうした危機的な状況の中で学生に事故が無く、無事に交換プログラムを終了することができる目処がたちました。

2020-21年度の交換につきましては現在、米国・フィンランドとの交換を中止しました。

最後に豪州で発生した大規模火災の支援として地区各クラブに支援をお願いしました「オーストラリア森林火災義損金」において地区内各クラブから多大なご支援を頂きましたことに深く感謝申し上げます。



委員長
松永英樹
(室蘭東RC)

インターアクト委員会

今年度はじめて地区のインターアクト委員会委員長を拝命し、地区役員、委員会委員、顧問の先生など多くの方に支えていただき、貴重な体験をさせていただきました。

8月の台湾海外研修では高校生の企画力や行動力、考え方の柔軟性などを目の当たりにし、インターアクトの目的の一つである若い時期に外国文化に接することの有用性を確認することができました。また10月の地区大会における青少年プログラムにも多くのインターアクターが参加し、お菓子作り体験やSDGs(持続可能な開発目標)を学ぶワークショップを経験して楽しんでもらい、かつ学習してもらったと思います。

ただ残念なことは新型コロナウイルス感染症の影響で後半の事業をすべて中止せざるを得なかったことです。インターアクターにとって大切な6月の年次大会はホスト校の札幌山の手高校と札幌西北ロータリークラブが新しい年次大会のやり方などを提案していただいておりますだけに、中止の決定は大変残念な事でした。次年度8月の事業になりますが海外研修も昨年の研修を踏まえて、よりインターアクターに有意義な企画を今年度に練っていくはずでしたが中止になってしまいました。

後半の事を考えると少し後悔も残りますが、次年度は大西正啓副委員長に委員長を引き継いでまいります。来年度は新型コロナウイルス感染症のリスクが減少する中で、今年度検討したアイデアが生かされ、より有意義なインターアクト活動ができる事を願っております。



委員長
川下和光
(札幌南RC)

ローターアクト委員会

本年度は、委員長最終年度の三年目で、福田武男ガバナーをはじめ、ご提唱いただいておりますロータリークラブの皆様、地区内ロータリアンの皆様方に、ローターアクト活動ならびに地区委員会運営にご理解とご協力、そして様々な面でサポートいただきましたことに感謝申し上げます。

私の反省点といたしましては、ローターアクトの認知度を上げることが出来なかったこと、新規ローターアクトクラブ設立が出来なかったことが悔やまれます。

会員数につきましては、一時期30名を割るところまでいきましたが、福田ガバナーのご尽力や提唱クラブのご尽力により50名強まで人数を回復することが出来ましたことに感謝申し上げますとともに一昨年、昨年と第2510地区を支えておりましたメンバーが卒業したことにより本年度は、アクト経験が短いメンバーが多い中、昨年度までの卒業したメンバーの影に隠れていたメンバーが前面に出てアクトを取り纏めていた姿は頼もしく見えました。

活動面では、本年度当地区でホストいたしました「ローターアクト北海道交流会」を、岩見沢市にて開催し成功を収めたのは、先に申し上げたメンバーがアクトを纏めて素晴らしい北海道交流会にすることが出来ました。もちろん岩見沢市及び近郊に拠点を置くロータリークラブの皆様のご理解とご協力があったからこそ成功に導くことが出来ました。ここで改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

そのほかの活動では、年度末開催予定の地区大会や海外研修などが新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったことは残念で悔いが残ります。特に地区大会では、年度末開催ということもあり、毎年年間表彰や卒業式を行っていましたが開催が出来なかったことが悔やまれますが、卒業式に関しましては改めて開催する予定です。

最後に、福田武男ガバナーをはじめ多くのロータリアンにご理解ご尽力賜り感謝を申し上げます。

さらに、次年度は当地区ホストといたしまして、第33回全国ローターアクト研修会が開催されます。現在、アクト及び地区委員会は万全の準備をしておりますが、この新型コロナウイルス感染症の影響によりどのような開催規模にするかなど、まだまだ先が見通せない状況です。随時、皆様に進捗状況など報告して参りますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。今後ともローターアクトをよろしくご協力申し上げます。



委員長
澁谷良治
(札幌真駒内RC)

財団補助金委員会

財団補助金委員会は副委員長に関根悟(千歳セントラルRC)会員を、委員に小幡直樹(苫小牧東RC)、川村忠(札幌西RC)、天内和幸(札幌モーニングRC)、上野英一(岩見沢RC)会員の5人にご協力いただきました。

財団からの地区補助金は12,188,556円(前年度9,270,358円)で、各クラブへの補助金の配分基準は下記の通りといたしました。

- ① 1クラブ、1プロジェクトの承認とする。 ② 3年前の寄付金の1/4を上限額とする。
③ 最高額は50万円とする。 ④ 会員数19名以下程度の小規模クラブは10万円とする。

2019年3月に開催された財団セミナーで会長エレクトへ説明を行い、5月31日に申請書を締切りましたが今年度は2017-18年度の未配分の地区財団活動資金(DDF)20%の半額が追加されたため地区補助金の上限額は112,857ドルに増額され審査の結果、未配分の補助金が約1百万円となりましたので11月30日を締切日として2次募集を行いました。

その結果、1次審査と合わせ45クラブ、44プログラムの申請が集まり前年度からそれぞれ4件増えました。

審査の結果、全ての申請プログラムを承認し、承認額は合計7,339,929円といたしました。

地区委員会からも8件の申請があり、4,489,500円で管理費は359,127円でした。

今年度はIM補助金管理セミナーを開催するため各グループガバナー補佐に依頼をいたしました。

5グループから検討するとの返事をもらいましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため第3と第12グループのみの開催となりました。各地区の皆様にご協力をいただいたことに感謝申し上げます。このほか、少しでも多くの会員が財団補助金のことを知って頂けるようにRI第2510地区の地区補助金活用事例として2018-19年度の各クラブの報告内容をRI第2510地区ホームページにアップロードいたしました。

次年度もご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



委員長
島 義 慈
(当別RC)

財団資金推進委員会

初めての委員長で何も分からず、先輩諸氏のアドバイスを受けながら手探りの状態から始まりました。活動方針、活動計画を策定し地区目標の達成を目指しスタートしました。

最重要目標はゼロクラブ達成のために地区研修等で各クラブの会長、幹事へのお願い、そして二番目には各クラブのロータリーカード取得の2点を重点項目としました。

ゼロクラブ達成につきましては1月から重点的に未納クラブへのお願いをと思っていましたところ新型コロナウイルス感染症の関係でどのクラブも例会中止で未納クラブが多いと事務局から連絡があり2度にわたり手紙と電話にてお願いしましたところ、何とか皆様の協力を得てゼロクラブ達成が出来ました。

次に各クラブでもロータリークラブカードを取得していただきカードで決済をお願いしました結果、ポリオ寄付にもなることを理解していただき加入クラブが増えたことも有難く各クラブの協力に感謝しております。

ただ残念なことは一人\$150ドル寄付の目標が達成できなかったことですが、次年度に向け目標達成できるよう各クラブに協力をお願いしたいと思います。世界中に広まった新型コロナウイルス禍でクラブ活動が困難な中、理解と協力をいただきました事に厚くお礼申し上げます。



委員長
伊藤 利道
(札幌南RC)

ポリオプラス委員会

当委員会は各クラブのポリオ撲滅活動・募金活動の支援のための委員会です。

ポリオ根絶活動の支援として、チラシ・ポスター・ノボリ・募金箱シールなどを作成し、各クラブに配布してきました。

今年度は「ポリオ撲滅」の標語が「ポリオ根絶」に変更になりましたので、新しくノボリ・チラシを作成し地区大会において各クラブに1枚ずつ配布しました。また「END PORIO NOW」のバッジを新会員の分として会員数の5%（最少で3個）を各クラブに配布しました。

10月24日の世界ポリオデーには札幌駅前南口広場において、ポリオ根絶の募金活動を行いました。札幌市内のクラブを中心として16名の会員の参加があり、市民や旅行者の皆様より、61,235円の寄付を頂きました。

また、10月21日14時から羽部大仁パストガバナーの慧林寺における毎年恒例の落語会において、「慧林寺ポリオ寄席」と題してポリオとロータリーの関わりについて5分ほどお話し、募金活動を行いました。こちらは市民100名、ロータリアン10名ほどの参加者があり、53,085円の寄付が集まりました。

ポリオ指定寄付に関しましては6月末日現在、地区からDDFの20%、34,973ドルの寄付を頂き、各クラブからは46,357ドルの寄付を頂きました。合わせて81,331ドルと例年並みの寄付をすることができました。

今期後半は新型コロナウイルス感染症の影響で思うような活動ができませでしたが、それにもかかわらず例年並みの寄付ができたことは、会員の皆様のご協力のおかげであり、この場をお借りしまして感謝申し上げます。



委員長
出村 知佳子
(札幌北RC)

財団奨学金・学友委員会

財団奨学金・学友委員長としての3年目の委員長卒業年度でした。

初年度は経験のない不安だらけのスタートでしたが、関係皆様に御支援を頂き、財団奨学生の募集から出発までの一連の過程を経験させて頂き、少し安心しながら今年度のスタートでした。そのおかげで、3年目となる今年度はルーティンの中で計画通りに一連の過程を順調に進めていくことができました。新たなグローバル奨学生候補生を3名輩出させて頂き、感染症研究(疾病予防と治療)2名、水と衛生1名、地区補助金奨学生は声楽1名と大変優秀な皆様の将来に、そして「世界で良いことをしよう」を一緒に叶えてくださるのを心から楽しみに応援していきたいと思っています。

また、「財団学友会総会、奨学生壮行会」を財団学友会、地区学友委員会と共同にて実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止せざるを得なくなりとても残念です。この影響により正式な承認を得るのは7月以降となっております。

それぞれの学生、国により状況も様々となります。今後もできる限りのサポートを、新委員長の松原重俊委員長、委員の皆様とともにしていきたいと思っています。3年間の委員長年度の卒業を清々しい気持ちで迎える予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響でそれが難しくなりましたが、こんな時だからこそ、ロータリアンの1人として学ばせていただく機会も増えるのではないかと思います。今後も素晴らしい新委員長と委員の皆様を陰ながらお手伝いしていきたいと思っています。

最後になりますが、思いがけない委員長就任からのスタートでしたが、初年度のスタートを信頼して任せて頂きました国立金助パストガバナーにこの場をお借りし、お伝えしたく存じます。3年間本当にありがとうございました。



委員長
青木貞康
(札幌はまなすRC)

米山記念奨学・学友委員会

2020-21年度の米山記念奨学生の合格が決まり、各クラブにお願いし受け入れが始まった状況ですが新型コロナウイルス感染予防対策のため海外へ出国中の数名の奨学生が帰国できないままのスタートとなってしまいました。新奨学生の歓迎会はもちろんカウンセラーとの対面もないまま、委員会の方でも十分な対応ができない中で受け入れクラブの皆様には大変ご迷惑をおかけしております。

次年度の佐藤竜也委員長のもと委員が結束して対応させて頂きたいと思います。

今年度を振り返ると昨年1月に面接試験を終え3月に歓送会、オリエンテーション、4月に歓迎会、8月には米山学友会との懇親を深める恒例の「夜空のジンギスカン」、9月には静内RCの方々に協力をいただいた宿泊研修旅行、10月に地区大会への参加、1月には再び面接試験と多忙な委員会活動でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け3月の歓送会が中止になってしまい、奨学生との残念な終了の形となってしまいました。しかし委員会のメンバーに協力を受けながら楽しく活動を終わることが出来たと思っております。

次年度も委員として米山記念奨学・学友委員会に残りますが佐藤委員長のもと充実した1年になるように参加していきたいと思っております。本当に1年間ありがとうございました。



新型コロナウイルス感染症予防・支援クラブ活動

●第12グループ●

「フェイスシールド寄贈プロジェクト事業」で感染症予防・支援活動を

2月22日、第12グループ内4クラブが苫小牧市にて新型コロナウイルス感染者罹患が報道機関を通じ発表され、奇しくも第12グループIM及び苫小牧北RC50周年記念式典が行われた日でもありました。

その日以降、グループ内4クラブは例会・事業等を自粛する事となり、4月中旬、地区より一通のメールが届き「フェイスシールド寄贈プロジェクト」のご案内をいただきました。4月22日開催の会長・幹事会において事業計画を協議し、第12グループとしての支援活動を行う事を決定しました。

フェイスシールドの寄贈先を「苫小牧医師会」「苫小牧歯科医師会」「苫小牧獣医師会」の3団体と決め、1市4町(苫小牧市・白老町・厚真町・鶴川町・安平町)へ配布を決定致しました。

医療機関等に一日でも早くフェイスシールドの寄贈を優先し、5月20日(水)、5月26日(火)の2回に分けて苫小牧医師会1,200セット、苫小牧歯科医師会480セット、苫小牧獣医師会240セットを寄贈となり、関係者の皆様にたいへん喜ばれました。

新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息する事、そしてロータリー活動及び経済活動が行える事を願い、報告と致します。



沖 一郎苫小牧医師会会長に贈呈 (2020/6/9)



阿部雅人苫小牧歯科医師会会長



山本雅昭苫小牧獣医師会会長

●倶知安ロータリークラブ●

『消防救急活動現場に医療用サージカルマスクを寄贈』

倶知安RCでは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い緊急事態宣言が発令されたことを受け、4月1日の例会以降、休会となっております。そのような中、多くのクラブ会員より感染予防に関して地域に何か支援したいとの連絡があり、当クラブとして消防・救急活動の支援を考えました。

日々、感染リスクにあいながらも人命救助・救急搬送を行っている救急隊員の皆様に少しでも安心して活動していただけるよう5月26日、倶知安消防署を訪問し、「医療用サージカルマスク」を寄贈致しました。岡田秀孝倶知安消防署長は「緊急事態宣言が解除されたとはいえ、まだまだ感染リスクはあるためとても心強く、安心できます。」と述べられておりました。



●留萌ロータリークラブ●

留萌市を通じて医療関係者の支援に50万円を寄贈

留萌RCでは新型コロナウイルス感染症の収束が見られない中、3月から例会の休会をはじめ、活動の自粛が続いており、例会等の支出予定の運営経費の一部を社会貢献の一助として、クラブ会員の総意により、医療現場の最前線で感染源と戦う医療従事者に対する支援が不可欠と考えました。

6月17日、福士幸子会長、串橋伸幸幹事が留萌市役所を訪れ、中西俊司市長に新型コロナウイルス感染症対策に充てて欲しいとクラブ事業費の一部50万円を「留萌市応援寄附」として寄贈しました。

福士会長は、「地域に貢献、奉仕する事は留萌RCの大きな目的、万一第2波、第3波が起きたとしても医療機関の充実が必要」と伝え、中西市長に目録を手渡し、中西市長からは「新型コロナウイルスの感染に対しては医療関係者の皆さんが市民のために頑張っていたいただいています。市としても感染拡大防止のためにも医療の充実に努め、いただいた善意を活用し、市民の安全に繋がりたい」と感謝の言葉がありました。

今回の支援活動につきまして、6月18日付の日刊留萌新聞で大きく紹介されました。



中西俊司留萌市長に目録贈呈



福士幸子会長(右)、中西留萌市長(左)から感謝状

●千歳ロータリークラブ●

『医療現場等にマスクや消毒液を寄贈』

6月18日、千歳RCでは例会等運営費の一部を新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止の為に日夜、医療現場で活動する医療従事者をはじめ、学校、介護施設等にマスク1万枚、消毒液一斗缶(18リッター)40本を千歳市に寄贈しました。

当クラブは、COVID-19拡大防止の為に、例会が3月から5月にかけて開催が出来ず、そこでこの例会はじめ運営費の一部を社会貢献として活用できないかと協議し、千歳市内では、札幌に続いて2番目にCOVID-19の罹患者が多く、医療崩壊などと報道される中、当クラブとして何か支援が出来ることがないか模索していました。



山口幸太郎千歳市長に目録贈呈



左から浅利幹事/大西副会長/藤川会長



感謝状を受ける藤川俊一会長



山口千歳市長（千歳RC名誉会員）担当部局幹部との懇談

しかし、この時期の調達に関しては、なかなか入手困難な時でもあり非常に苦慮しましたが、会員の声掛けにより、マスク1万枚、消毒液一斗缶40本という大量の物資を集めることが出来、千歳市に寄付する事が出来ました。

このような時、ロータリーの力、ロータリーの輪を発揮することが出来、また地域の現状を再確認することが出来た事にとっても感動しました。マスク及び消毒液は、千歳市から市内の医療機関はもとより、学校・介護施設などに配分され、活用していただき、千歳市からは感謝状を受けたところです。

● 恵庭ロータリークラブ ●

『医療・福祉従事者にフェイスシールドを寄贈』

恵庭RCでは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)予防のために3月より6月10日までの例会を中止し、会員や家族の健康第一に考慮しました。

5月24日に創立50周年記念式典を行う予定でありましたが6月24日に延期、規模を縮小して行う事とし、感染症拡散予防のため記念事業を中止とした上で、記念事業に係わる予定の市内の小中学校に記念品の寄贈のみとしました。

COVID-19の拡大する中、弘中司嘉子恵庭RC会長らが恵庭市を訪問し、原田裕市長に対して医療・福祉などの関連各所に感染症予防のためにフェイスシールド4,800枚を寄贈しました。

また、世界各国・日本国内におけるCOVID-19の早期終息を願い、会長並びに国際奉仕委員長が会員の寺院にて祈願を行い、例会場には、消毒液・マスクを備品として用意し、テーブル上にアクリル板のシールドを設置し、会員の感染症予防策に努めています。今後においても出来る限りの会員内の感染症予防対策を実施し、支援活動についても考慮しているところです。



弘中司嘉子恵庭RC会長ら訪問、原田裕恵庭市長に目録を



会員寺院で終息祈願



例会場に消毒液やマスクを常備。演壇やテーブルにアクリル板を設置



●羽幌ロータリークラブ●

『医療機関や高校等にフェイスシールドを寄贈』

当クラブの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)予防並びに、地域における支援活動について報告いたします。

先ずは、この度のコロナ禍により犠牲になられた方、被害を受けられた方に衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

当クラブもおよそ3か月に渡り活動を自粛、5月末よりようやくクラブ運営が再開され例会等会合の際には、マスク着用・手指の消毒・座席間の距離確保を徹底しております。

自粛期間中、地区事務所より今年度地区補助金のコロナ対策への活用と「フェイスシールド」に関するご連絡をいただき、これを受け、地区補助金を運用して6月に入り、小川原靖羽幌RC会長が6月9日、羽幌町役場を訪れ、駒井久晃町長に「フェイスシールド」200セットを寄贈、その後、初山別村並びに両地域の医療・社会福祉機関、学校等に「フェイスシールド」(ロータリーロゴマーク入り)を合計950セット寄贈させていただきました。ささやかながら、地域のコロナ予防対策に貢献できたと思っています。

未だ、このウイルスに対抗する手段(特効薬・ワクチン等)の確立には至らない中、間もなくロータリーは新年度を迎えますが、私共は今後もCOVID-19対策に向き合い、地域貢献を模索しつつ、クラブ運営をしていく所存です。



北海道立羽幌病院に贈呈



北海道羽幌高等学校に贈呈

●美唄ロータリークラブ●

『医療機関にフェイスシールドを寄贈』

新型コロナウイルス感染症拡大により、いろいろな活動が中止になる中、「地域に奉仕の心を届ける」という理念に基づき、美唄RCで何かできないかと考えていたところ、福田武男ガバナー事務所から「医療機関へフェイスシールドを寄贈しよう」との動きを知りました。

医療資材不足がいわれている中で、現場で働いている方々が安心・安全に医療行為ができることは非常に大切に、地域住民への医療担保のためにも重要とのことで、直ぐに臨時の役員会を開催し、翌日には業者へ注文を入れました。

5月末には「フェイスシールド」が到着し、「救急を含め医療現場の方々の安心・安全に活用して頂きたい」という思いで、翌日に美唄RC奉仕プロジェクト医療事業として、5月28日、美唄市(市立美唄病院、美唄消防本部救急隊、その他)と北海道せき損センターに総数840枚のフェイスシールドを寄贈いたしました。板東知文美唄市長はじめ、美唄消防長ならびに美唄脊損センター院長からは感謝のお言葉をいただきました。

最後になりますが、今回の事業を提案していただいた福田ガバナーとフェイスシールド製作会社の皆様に心から感謝申し上げます。

●森ロータリークラブ●

『フェイスシールド・消毒液・除菌漂白剤など寄贈』

当クラブ所在地の森町は、駒ヶ岳の麓と噴火湾沿いに位置し、農業においては火山灰地や濁川カルデラ地熱発電の温水を活用した野菜の栽培、林業においてはミズナラ・イタヤの広葉樹での木炭生産量が全道一、漁業はホタテ養殖、定置網漁業等年間を通じて噴火湾から漁獲され、それらを加工する水産加工業は多くの地元雇用を生み出しております。

今般、新型コロナウイルス感染症拡大により2月28日より小・中・高校の一斉休業となる中、幼稚園・保育所共に従来通りの保育を行ってまいりました。

森町には町立幼稚園2施設、町立保育所3施設、認可外保育園5施設があり、各施設職員は児童の安全に配慮し、日々業務に努めているとのことでしたが、アルコール製剤、殺菌剤などの不足により感染リスクに苦慮していると伺い地区より調達しましたフェイスシールド、クラブで調達した消毒用ジェル、除菌漂白剤「ジアンック」を寄贈することとしました。

6月22日、島野裕司会長らが森町役場を訪問し、梶谷恵造町長に上記3品目の贈呈式を行いました。子育て支援課より各施設に配布、大変喜んでおりましたとの報告があり、加えてロータリーマーク付きのフェイスシールドで認知度向上に寄与できたと思います。



6月22日 贈呈式 左：梶谷恵造森町長



森町立尾白内保育所に消毒液など寄贈



寄贈したロータリーマーク付きのフェイスシールド

●長沼ロータリークラブ●

長沼町にフェイスシールド500枚を寄贈、医療機関に配布

この度の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)予防につき、1月末までは平常の例会を執行しておりましたが、「さっぽろ雪まつり」の後あたりから、なんとなく不安な日々を迎え、結局のところ、緊急事態宣言下で例会の開催ができず、次期役員を選出、今後の例会のあり方について協議する場もなく、やむを得ず数人の理事にて「3密」のないよう理事会を2回開きました。

長沼RCのメイン事業であります「第28回長沼交流国際フェスティバル」を中止せざるを得なくなり、今後、プログラム内容や実施方法等についてどうあるかを含め、来期に向けて検討を始めたところです。

また、クラブでの諸連絡はLINEを主な手段として活用しておりますが、地区が推奨するオンライン会議アプリzoomでの例会も考えなければと次期役員と検討中です。

COVID-19支援活動につきましては、福田武男ガバナーよりご提案いただきました「フェイスシールド」を6月5日、池内昌之会長等が長沼町を訪れ、戸川雅光町長に贈呈し、町を通じて医療機関を中心に500枚を配布しました。



長沼町に贈られたフェイスシールド500枚

新会員のご紹介

(敬称略)

第4グループ



札幌モーニングRC
菊地 啓介
6月17日入会
司法書士



札幌西北RC
金井 英樹
6月1日入会
宣伝業



札幌西北RC
岡出 敏美
6月1日入会
情報処理サービス



札幌西北RC
横山 哲也
6月1日入会
税理士

第6グループ



小樽RC
本林 哲也
6月23日入会
都市ガス配給



小樽RC
エロール・ミフタヒッテン
6月23日入会
ホテル



小樽銭函RC
平田 一良
1月1日入会
建設業



小樽銭函RC
山谷 勝義
1月1日入会
土木業

第7グループ



千歳RC
反田 真嗣
3月26日入会
電力事業



千歳RC
佐藤 宏光
3月26日入会
新聞発行



千歳RC
森木 博之
6月11日入会
ビール製造



千歳RC
小田 賢一
6月25日入会
公益経済団体

訃報

謹んでお悔やみ申し上げますとともに心からご冥福をお祈り致します



第2グループ 砂川RC

西川 博久 さん 2020年6月15日ご逝去（享年85歳）

【ロータリー歴】 1979年10月 入会
1995-1996年度 クラブ会長
【表彰】 マルチプル・ポール・ハリス・フェロー
米山功労者



第6グループ 岩内RC

前田 稔 さん 2020年6月14日ご逝去（享年81歳）

【ロータリー歴】 1964年1月 入会
1993-1994年度 クラブ会長
2011-2012年度 クラブ会長
【表彰】 ポール・ハリス・フェロー
2013-2014年 永年(50年)出席率100%会員表彰



第6グループ 小樽銭函RC

藤田 政昭 さん 2020年5月10日ご逝去（享年91歳）

【ロータリー歴】 1975年9月 入会
1982-1983年度 クラブ会長
1989-1990年度 クラブ会長
1992-1993年度 ガバナー補佐
1999-2000年度 ガバナー補佐
2003-2004年度 クラブ会長
2007-2008年度 ガバナー補佐



第6グループ 小樽銭函RC

嶋谷 公幸 さん 2020年3月15日ご逝去（享年84歳）

【ロータリー歴】 1983年7月 入会
2007-2008年度 クラブ会長



米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

◇米山功労者

深川RC	宮澤 孝司	会員	(4回)	5月27日	函館五稜郭RC	川内 淳司	会員	(3回)	6月 8日
札幌清田RC	三戸 和昭	会員	(1回)	5月26日	函館五稜郭RC	上加 淳悦	会員	(4回)	6月 8日
江別RC	金田 敏雄	会員	(1回)	6月22日	函館五稜郭RC	石坂 仁	会員	(4回)	6月 8日
札幌モーニングRC	齋藤 貴之	会員	(2回)	6月26日	函館五稜郭RC	濱中 公也	会員	(4回)	6月 8日
札幌モーニングRC	露木 茂	会員	(2回)	6月26日	函館五稜郭RC	横岡 孝一	会員	(5回)	6月 8日
札幌モーニングRC	柴藤 正行	会員	(2回)	6月26日	函館五稜郭RC	村田 信吾	会員	(5回)	6月 8日
札幌モーニングRC	井野 智	会員	(3回)	6月26日	函館北RC	南木 哲雄	会員	(1回)	6月 3日
札幌西RC	中村 久子	会員	(1回)	6月 1日	函館北RC	増田 定雄	会員	(2回)	6月 3日
札幌手稲RC	中村 和雄	会員	(3回)	6月25日	白老RC	加藤 泰久	会員	(1回)	6月17日
札幌幌南RC	羽部 大仁	会員	(14回)	6月29日					
静内RC	藤沢 澄雄	会員	(1回)	6月 3日					
静内RC	富岡 豊	会員	(3回)	6月 3日					
登別RC	遠藤 秀雄	会員	(11回)	6月29日					
函館五稜郭RC	和田 元春	会員	(1回)	6月 8日					
函館五稜郭RC	川嶋 貴幸	会員	(1回)	6月 8日					

◇米山功労クラブ

札幌手稲RC	(30回)	6月25日
函館五稜郭RC	(30回)	6月 8日
函館北RC	(7回)	6月 3日

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

◇メジャードナー

滝川RC	渡邊 恭久	会員 (レベル1)	6月12日	岩内RC	吉田 栄治	会員	(1回)	6月 5日
札幌西RC	石丸修太郎	会員 (レベル1)	6月19日	函館五稜郭RC	平林 秀樹	会員	(1回)	6月10日
登別RC	遠藤 秀雄	会員 (レベル2)	6月30日	函館五稜郭RC	廣田 友博	会員	(1回)	6月10日
登別RC	遠藤 征子	会員 (レベル2)	6月30日	函館五稜郭RC	星井 英人	会員	(1回)	6月10日

◇マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

赤平RC	藤原 税	会員 (2回)	5月14日	函館五稜郭RC	川嶋 貴幸	会員	(1回)	6月10日
札幌手稲RC	平川 香織	会員 (1回)	5月22日	函館五稜郭RC	上加 淳悦	会員	(2回)	6月10日
函館東RC	五十嵐 稔	会員 (1回)	5月28日	函館五稜郭RC	村田 信吾	会員	(3回)	6月10日
函館東RC	田中 治	会員 (1回)	5月28日					
函館東RC	今井 義憲	会員 (2回)	5月28日					
函館東RC	松山 茂	会員 (2回)	5月28日					
函館東RC	小野 孝良	会員 (2回)	5月28日					
江別RC	菊田 正徳	会員 (2回)	6月24日					
江別RC	佐伯 宮彦	会員 (2回)	6月24日					
札幌モーニングRC	佐藤 元治	会員 (3回)	6月26日					
札幌西RC	石丸修太郎	会員 (8回)	6月19日					
札幌手稲RC	中村 和雄	会員 (2回)	6月26日					
札幌東RC	大 公一郎	会員 (5回)	6月30日					
札幌幌南RC	北川 好和	会員 (1回)	6月30日					
札幌幌南RC	大作 佳範	会員 (1回)	6月30日					
札幌幌南RC	伊藤 利道	会員 (2回)	6月28日					

◇ポール・ハリス・フェロー

蘭越RC	山田 一晴	会員	5月22日
様似RC	小林 栄一	会員	5月21日
様似RC	小野 哲弘	会員	5月21日
様似RC	高木 茂一	会員	5月21日
函館北RC	平井 喜一	会員	5月28日
函館北RC	安田 雄二	会員	5月28日
深川RC	宮澤 孝司	会員	6月17日
栗山RC	山本 秀一	会員	6月 5日
札幌モーニングRC	大西 正啓	会員	6月26日
札幌真駒内RC	山内 正子	会員	6月30日
函館亀田RC	廣正 賢治	会員	6月17日
函館亀田RC	川北 正樹	会員	6月17日
函館亀田RC	横内 誠一	会員	6月17日

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			2019.7.1	2020.5.31	増減	内女性	
1	深 川	1	31	32	1	1	90.32
	羽 幌	0	43	43	0	2	0.00
	妹背牛	1	6	7	1	0	85.71
	留 萌	0	29	31	2	4	0.00
	小 計		109	113	4	7	88.02
2	赤 平	0	24	21	-3	2	0.00
	芦 別	0	30	30	0	2	0.00
	砂 川	0	40	40	0	1	0.00
	滝 川	0	92	95	3	4	0.00
	小 計		186	186	0	9	0.00
3	美 唄	1	26	24	-2	0	95.65
	江 別	1	34	37	3	1	77.14
	江 別 西	1	35	36	1	4	86.10
	岩 見 沢	4	87	93	6	0	94.90
	岩見沢東	1	17	15	-2	2	86.70
	栗 沢	2	18	18	0	1	100.00
	栗 山	0	27	26	-1	5	0.00
	当 別	0	29	29	0	0	0.00
	小 計		273	278	5	13	73.58
4	札 幌	0	127	129	2	2	0.00
	札幌はまなす	0	18	16	-2	2	0.00
	札 幌 北	0	45	45	0	5	0.00
	札幌モーニング	0	31	37	6	0	0.00
	札 幌 西	0	50	52	2	10	0.00
	札幌西北	0	33	31	-2	3	0.00
	札幌手稲	0	40	37	-3	4	0.00
	小 計		344	347	3	26	0.00
5	札 幌 東	0	121	117	-4	0	0.00
	札幌清田	2	12	11	-1	3	100.00
	札幌幌南	0	56	57	1	2	0.00
	札幌真駒内	0	24	22	-2	6	0.00
	札 幌 南	0	92	89	-3	1	0.00
	札幌大通公園	0	13	13	0	3	0.00
	札幌ライラック	0	19	18	-1	7	0.00
	新 札 幌	0	29	27	-2	5	0.00
小 計		366	354	-12	27	100.00	
6	岩 内	0	20	24	4	1	0.00
	倶 知 安	0	34	34	0	3	0.00
	小 樽	0	74	75	1	6	0.00
	小 樽 南	0	64	63	-1	3	0.00
	小樽銭函	0	22	23	1	1	0.00
	蘭 越	3	8	8	0	0	100.00
	余 市	0	42	42	0	4	0.00
小 計		264	269	5	18	100.00	

5 月 出 席 率 ・ 会 員 増 減 数	クラブ数	70クラブ
	期首会員数	2,584人
	当月末会員数(女性)	2,606人(177人)
	増加会員数	26人
	当月平均出席率	79.00%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			2019.7.1	2020.5.31	増減	内女性	
7	千 歳	0	74	77	3	11	0.00
	千歳セントラル	0	42	44	2	9	0.00
	恵 庭	0	52	49	-3	3	0.00
	北 広 島	1	15	15	0	0	33.33
	長 沼	2	17	17	0	3	75.00
	由 仁	0	8	8	0	1	0.00
	小 計		208	210	2	27	54.17
8	え り も	0	20	20	0	1	0.00
	三 石	0	12	12	0	0	0.00
	様 似	0	16	16	0	1	0.00
	静 内	1	69	71	2	4	100.00
	浦 河	0	27	27	0	3	0.00
	小 計		144	146	2	9	100.00
	9	伊 達	0	63	65	2	2
室 蘭		0	28	33	5	2	0.00
室 蘭 東		0	35	34	-1	3	0.00
室 蘭 北		0	49	49	0	2	0.00
登 別		0	26	30	4	1	0.00
洞 爺 湖		0	11	12	1	1	0.00
小 計			212	223	11	11	0.00
10	函 館	0	76	77	1	2	0.00
	函館亀田	0	37	38	1	4	0.00
	森	1	35	33	-2	0	33.00
	七 飯	1	12	14	2	0	78.60
	長 万 部	0	10	10	0	0	0.00
	函館セントラル	0	26	25	-1	2	0.00
	小 計		196	197	1	8	55.80
11	江 差	2	10	11	1	1	63.64
	函館五稜郭	0	54	52	-2	0	0.00
	函 館 東	0	42	40	-2	8	0.00
	函 館 北	0	19	20	1	0	0.00
	北 斗	2	12	12	0	0	58.33
小 計		137	135	-2	9	60.99	
12	白 老	1	30	33	3	3	55.00
	苦小牧	1	60	58	-2	2	80.36
	苦小牧東	0	27	28	1	5	0.00
	苦小牧北	1	28	29	1	3	100.00
	小 計		145	148	3	13	78.45
合 計		2,584	2,606	22	177	79.00	

※例会を行ったクラブの数で出席率を算出しています

※岩見沢RCには岩見沢ネクストロータリー衛星クラブの会員数13名(内女性会員0名)を含む

出席率・会員数

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			2019.7.1	2020.6.30	増減	内女性	
1	深 川	4	31	32	1	1	83.95
	羽 幌	3	43	43	0	2	78.29
	妹背牛	3	6	6	0	0	85.71
	留 萌	3	29	28	-1	4	76.92
	小 計		109	109	0	7	81.22
2	赤 平	3	24	20	-4	2	85.96
	芦 別	2	30	29	-1	2	70.13
	砂 川	3	40	39	-1	1	87.82
	滝 川	2	92	93	1	5	62.00
	小 計		186	181	-5	10	76.48
3	美 唄	3	26	24	-2	0	92.83
	江 別	4	34	35	1	1	100.00
	江 別 西	5	35	36	1	4	83.30
	岩 見 沢	4	87	90	3	0	96.23
	岩見沢東	4	17	15	-2	2	82.86
	栗 沢	3	18	18	0	1	100.00
	栗 山	3	27	26	-1	5	88.00
	当 別	2	29	28	-1	0	93.11
	小 計		273	272	-1	13	92.04
4	札 幌	1	127	125	-2	2	100.00
	札幌はまなす	2	18	15	-3	2	100.00
	札 幌 北	0	45	43	-2	5	0.00
	札幌モーニング	3	31	35	4	0	100.00
	札 幌 西	1	50	51	1	10	59.09
	札幌西北	3	33	34	1	3	90.40
	札幌手稲	1	40	38	-2	4	88.89
	小 計		344	341	-3	26	89.73
5	札 幌 東	4	121	112	-9	0	100.00
	札幌清田	5	12	11	-1	3	100.00
	札幌幌南	4	56	51	-5	0	100.00
	札幌真駒内	4	24	20	-4	5	100.00
	札 幌 南	3	92	86	-6	1	100.00
	札幌大通公園	2	13	13	0	3	42.30
	札幌ライラック	2	19	18	-1	7	100.00
	新 札 幌	2	29	25	-4	5	73.91
小 計		366	336	-30	24	89.53	
6	岩 内	3	20	23	3	1	83.03
	倶 知 安	4	34	33	-1	3	52.90
	小 樽	2	74	71	-3	4	96.66
	小樽南	0	64	64	0	3	0.00
	小樽銭函	3	22	23	1	1	72.00
	蘭 越	5	8	8	0	0	90.00
	余 市	2	42	42	0	4	91.60
小 計		264	264	0	16	81.03	

6 月 出 席 率 ・ 増 減 数	クラブ数	70クラブ
	期首会員数	2,584人
	当月末会員数(女性)	2,517人(172人)
	増加会員数	-67人
	当月平均出席率	82.00%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			2019.7.1	2020.6.30	増減	内女性	
7	千 歳	3	74	74	0	10	84.60
	千歳セントラル	4	42	43	1	9	72.06
	恵 庭	2	52	49	-3	3	89.35
	北 広 島	4	15	15	0	0	66.67
	長 沼	3	17	17	0	3	80.50
	由 仁	2	8	8	0	1	87.50
	小 計		208	206	-2	26	80.11
8	え り も	1	20	20	0	1	95.00
	三 石	5	12	10	-2	0	78.00
	様 似	3	16	16	0	1	81.25
	静 内	1	69	67	-2	4	88.00
	浦 河	1	27	26	-1	3	80.77
	小 計		144	139	-5	9	84.60
	9	伊 達	4	63	62	-1	2
室 蘭		4	28	30	2	2	74.00
室 蘭 東		4	35	32	-3	3	62.00
室 蘭 北		4	49	48	-1	2	78.20
登 別		3	26	30	4	1	80.00
洞 爺 湖		2	11	12	1	1	100.00
小 計			212	214	2	11	78.90
10	函 館	4	76	68	-8	2	76.70
	函館亀田	5	37	36	-1	4	68.11
	森	3	35	33	-2	0	88.00
	七 飯	2	12	14	2	0	92.90
	長 万 部	2	10	10	0	0	60.00
	函館セントラル	5	26	23	-3	2	65.15
小 計		196	184	-12	8	75.14	
11	江 差	2	10	10	0	1	63.64
	函館五稜郭	4	54	53	-1	0	76.16
	函 館 東	5	42	35	-7	8	72.50
	函 館 北	4	19	18	-1	0	75.66
	北 斗	4	12	12	0	0	66.60
小 計		137	128	-9	9	70.91	
12	白 老	4	30	31	1	3	59.70
	苦小牧	4	60	55	-5	2	84.68
	苦小牧東	4	27	28	1	5	96.30
	苦小牧北	3	28	29	1	3	96.30
	小 計		145	143	-2	13	84.25
合 計		2,584	2,517	-67	172	82.00	

※例会を行ったクラブの数で出席率を算出しています

※岩見沢RCには岩見沢ネクストロータリー衛星クラブの会員数13名(内女性会員0名)を含む

ポール・ハリス語録 No.13

今から100年後にロータリーはどうなっているでしょうか？

生きている人には想像もつきません。現在のロータリーにとって不可能なことはありません。

私は、ロータリーは生き続けると信じています。生きているなら発展するでしょう。

いつか現在の会員資格によって課せられる責務を遂行できなくなるときが来ます。私たちは、冷酷な掟に従い、年老いていくに違いありません。

そのとき私たちはどうするのでしょうか？

退会しますか？ 多分、退会しないでしょう。

もし退会しなければ、大いなるロータリーの夜明けが多分そのとき来るでしょう。

ロータリアン誌 1915年2月号

**神よ、人の短所や国の欠点は
目に入らないように、
長所や良いところだけが目につくように
お守り下さい。**

ポール P・ハリス

Rotary



ロータリーは
世界をつなぐ